

ネットワークビデオレコーダ 取扱説明書

VER 1.0

- 本製品をご使用前に、取扱説明書をお読みいただき、十分ご理解いただいた上で、正しくご使用されますようお願い申し上げます。
- この取扱説明書は、後で確認できるよう分かりやすい場所に保管してください。

安全上のご注意

火災や感電の危険を減らすため、
製品を雨や湿気にさらさないでください。

製品の設置は、資格のあるサービス担当者が行う必要があります。

注意

製品の動作前の確認

次の詳細に従って、物的損傷または人身事故を防止します。

重要な注意及び警告



警告：使用または正しく取り付けられていない場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。



注意：正しく使用またはインストールしないと、使用者が負傷したり、物的損害を受ける可能性があることを示します。



注意：感電や火災による危険を減らすには、霧や雨、湿気にさらさないでください。

一般的な警告



警告

1. 製造社からの付属または、推薦されている電源コードを使用してください。他の電源を使用した場合、火災・感電・加熱・装置の変形等の恐れがあります。
2. 製品の分解・改造をしないでください。
不具合や火災の原因になる可能性があります。
3. 製造メーカーに修理を依頼してください。
修理を適切に行わないと感電や火災を起こす可能性があります。
4. 濡れた手で製品に触れないでください。
誤動作や感電の原因になる可能性があります。
5. 製品の設置は、製品設置のために専門家に依頼する必要があります。
誤動作、感電、火災の原因となる可能性があります。
6. 接地は、第三(接地)ピンを有する三線式接地型プラグを備えた映像製品に適用されます。
このプラグは接地型のコンセントにのみ差し込みます。
接地を行わないと、誤動作や感電の原因になる可能性があります。
7. 接地接続はガス管や水道管、電話線に触れてはいけません。
接地が正しくできなかった場合、製品故障や感電の原因となることがあります。
8. 金属の異物が製品内に侵入するのを防いでください。
誤動作や感電の原因になる可能性があります。
9. 稼働中に殺虫剤や可燃性スプレーを噴霧しないでください。
火事になる事があります。
10. 通気を保証する開放的な場所に製品を置いてください。
オーバーヒートを起こし、システムが損傷するおそれがあります。
11. 水などの液体を入れないでください。本機は防水ではありません。
液体がかかった場合や潮風で汚れた場合は、乾いた柔らかい吸水性の良い布で拭いてください。



注意

1. 製造社からの付属または、推薦されている電源コードを使用してください。
内蔵ファンが高速で回転し、事故を起こすことがあります。
2. 落下、強い振動、衝撃を与えないでください。
誤動作の原因になる可能性があります。
3. 前面パネルの吸気口及び背面パネルの排気口は、設置時に塞がれてはなりません。
製品の内部温度が許容値を超え、誤動作や火災を引き起こす可能性があります。
4. 雷が鳴っているときは製品と電源コードに触れないでください。
感電を起こす可能性があります。
5. 製品を熱源の近くまたは、上に設置しないでください。
製品の内部温度が許容値を超え、誤動作や火災を引き起こす可能性があります。

6. 製品を傾けたり不安定にしたり、振動が起こりやすい場所に設置しないでください。
誤動作の原因になる可能性があります。

電源に関する注意事項



警告

1. 電源コードのコンセントを使用して接続する必要があります。そうしないと、火災が発生する恐れがあります。
2. 電源コードの途中で接続したり、延長コードを使用したりしないでください。
発熱したり、火災を起こすことがあります。
3. 濡れた手で電源コードに触れないでください。
感電を起こす可能性があります。
4. 電源コードを乾燥させて湿気を防ぎます。
発熱したり、火災を起こすことがあります。 電源コードは防水ではありません。
5. 電源プラグを外しながらプラグ本体を持ちます。
電源コードを引き抜かないでください。 電源ケーブルが破損すると、発熱または火災が発生する可能性があります。
6. 電源プラグを定期的に確認してください。
煙草の湿気や喫煙が火災の原因になることがあります。
7. 長時間使用しないときは、コンセントから電源ケーブルを外します。
ショートや感電を起こす可能性があります。



注意

1. 電源プラグを取り外して電源を切らないでください。
電源を切るには、モニター画面で電源オフ動作を選択してください。
システムが異常停止すると、電源ボタンが機能しないことがあります。 電源ボタンを5秒間長押しして電源を切ります。
2. ハードディスクが動作している間は、人為的に電源を切ったり、製品に衝撃や振動を与えないでください。
ハードディスクの障害またはデータの損失を引き起こす可能性があります。



備考

※ 機能または構成は、製品の改良に関する事前通知なしに変更または修正されることがあります。

目次

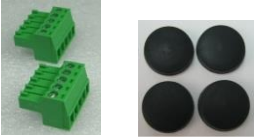
1.	はじめに	3
1.1	梱包品の確認	3
1.2	システムの起動	4
1.3	システム終了	5
1.4	システムの説明	5
2.	起動ウィザード	8
2.1	言語	8
2.2	日付/時刻	8
2.3	HDD フォーマット	9
2.4	ネットワーク	9
2.5	カメラ登録/管理	11
2.6	完了	12
3.	操作	12
3.1	ユーザーログイン	12
3.2	カメラの登録	12
3.3	カメラの削除	15
3.4	カメラの設定	15
3.5	ライブディスプレイモード	17
3.6	PTZの動作	19
3.7	録画された映像の再生	20
3.8	録画された映像の検索	21
3.9	スマート検索	24
3.10	DST(夏時間)設定と映像の再生	25
4.	設定	27
4.1	システム	28
4.2	デバイス	34
4.3	アラーム	39
4.4	録画	43
4.5	ネットワーク	46
4.6	バックアップ	56
5.	IEを介したウェブ監視	59
5.1	ウェブログイン	59
5.2	ウェブモニタリング	60
5.3	ウェブ再生	61
5.4	設定	61

1. はじめに

1.1 梱包品の確認

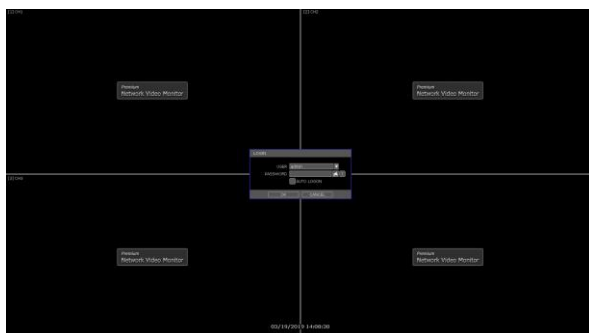
次のアイテムが NVRに付属していることを確認します。 これらのアイテムのいずれかが欠品または破損し

ている場合は、直ちにベンダーに通知してください。梱包品は、移動または保管のために保管してください。

品名	イメージ	数量
CD		1 個
アダプターと電源コード (8ch、16chは電源内蔵型)		各 1 個
マウス		1 個
ターミナルブロックと ゴムマウント	 * 製品によって異なる場合があります。	1ペア (2個) 1 セット

1.2 システムの起動

カメラ、モニター、マウスなどの周辺機器をNVRに接続したら、アダプターを背面パネルの電源ジャックに接続してNVRの電源を入れます。 ブートログが次のように表示されます。 起動プロセスが完了するまでお待ちください。



ログインするには、画面の任意の場所を右クリックし、ポップアップ画面にユーザ名とパスワードを入力します。 NVRで設定できる管理者アカウントは 1つだけです。‘admin’とマークされた変更不可能なユーザ ID が割り当てられます。 デフォルトのパスワードは ‘1234’ です。管理者アカウントは、NVRとその設定可能なパラメータにフルアクセスでき、新しいユーザを作成したり、新しいユーザアカウントに権限を割り当てることもできます。

NVRが 自動ログインに設定されている場合は、ログインプロセスは必要ありません。

注意

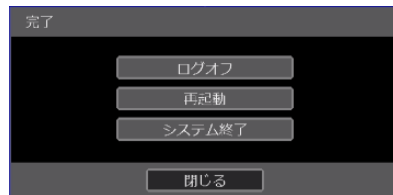
- 1) ユーザーがネットワーク設定をDHCPモードに設定しても、ネットワークにDHCPサーバーが存在しないか、ネットワークが接続されていない場合に、電源を入れてからシステムを起動するのに数分かかることがあります。
- 2) マウスが付属しています。交換が必要な場合には、DELL、MICROSOFT、LOGITECH、SAMSUNG など、よく知られた主要ブランドを選択することをお勧めします。

ノート

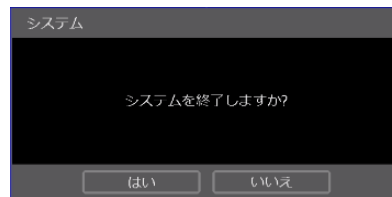
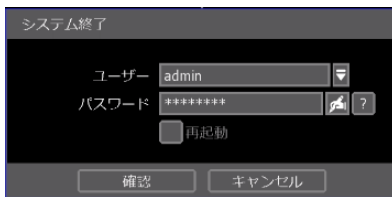
- 1) 初めて設定した管理者のパスワードを忘れないでください。パスワードを忘れた場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。
- 2) 自動ログインおよび自動ログオフについては、“セクション 4.1.2 ユーザー”を参照してください。

1.3 システム終了

電源を切るには、ツールバーの終了ボタンをクリックし、ポップアップ画面の「システム終了」をクリックします。電源プラグを引いて電源を切らないでください。



パスワードを入力し、「確認」をクリックしてシステムを終了します。「はい」をクリックして終了を確認します。



ノート ユーザーは、仮想キーボードでパスワードを入力できます。

1.4 システムの説明

1.4.1. 前面パネル

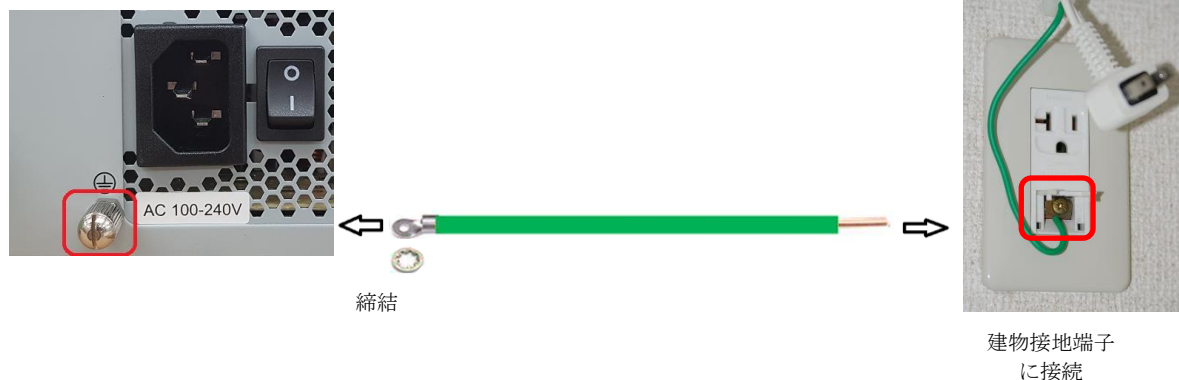


- ① LED インジケータ : システムステータスを示します。（電源、HDD、ネットワーク状況）
- ② USB ポート : マウスやバックアップ用USBメモリーを接続します。

1.4.2. 背面(接地)

機器に同梱された保護接地線を製品背面にある接地端子に接続し、反対側を建物接地端子に接続して正しく接地する必要があります。

最小1.6mm直径熱処理銅線または最小1.25mm単一コア線、ネジ径：4mm、接地線の長さ：1500mm



1.4.3. ライブモードのツールバー

ライブ画面で、マウスカーソルを画面下部に移動してメニューバーを表示します。



メニューボタン

メニュー ボタンをクリックして、NVRのメインメニュー画面にアクセスします。 “4. 設定”を参照してください。

ディスプレイモード

使用可能なオプションからディスプレイ分割モードを選択します。 1ch、4ch、6ch、8ch、9ch、10ch、13ch、16chモードを選択します。

シーケンス

ライブ モードでシーケンス モードを開始または停止します。 すべてのチャンネルが表示されている場合、シーケンスはディセーブルです。

チャンネル

対応する番号を押して、特定のチャンネルのシングルチャンネルビューに切り替えます。

緊急録画

システムは、録画設定に関係なく、フルフレームレートのチャンネルをすべて最大解像度で記録します。緊急記録を停止するには、同じアイコンを再度クリックします。

バックアップ

録画した映像を外部デバイスにバックアップします。 詳細については、“4.6 バックアップ”を参照してください。

再生

再生モードに切り替えます。 詳細については、“3.7 録画された映像の再生”を参照してください。

検索

検索オプション画面を開きます。 詳細については、“3.8 録画された映像の検索”を参照してください。

終了処理

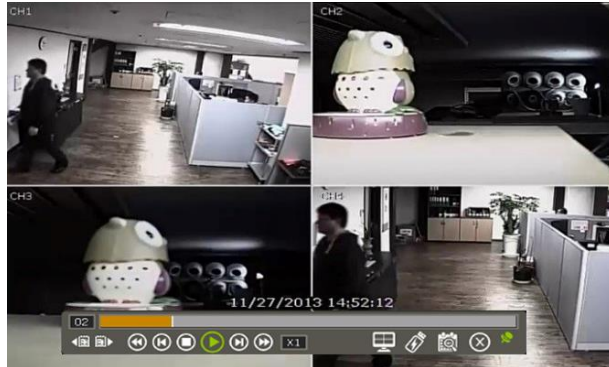
ログオフ、再起動、およびシステム終了の3つのオプションを使用して NVRを終了します。

メニューバー固定トグル

選択すると、マウスの位置に関係なく、NVRのメニューバーが画面に永続的に表示されます。

1.4.4. 再生モードのツールバー

再生画面で、マウスカーソルを画面下部に移動してメニューバーを表示します。



チャンネル

現在選択されているチャンネルを示します。

インテリジェント検索バー

選択したチャンネルの録画ステータスを 00:00 ~ 24:00 で表示します。 白い縦線は、現在表示されている時刻を示します。 白い縦線を移動すると、映像が更新されます。
(色の詳細については、“4.4.2 録画日程”を参照してください。)

前/次の日付の検索

前の日または次の日に移動して検索できます。

再生調整ボタン

-  : 逆再生速度調整 (x99 / x64 / x32 / x16 / x8 / x4 / x2)
-  : 1フレームコマ戻し
-  : 停止ボタン
-  : 再生ボタン
-  : 1フレームコマ送り
-  : 再生速度調整 (x2 / x4 / x8 / x16 / x32 / x64 / x99)
-  : 現在の再生速度の表示

画面分割モード

使用可能なオプションから画面分割モードを選択します。 1CH、4CH、6CH、8CH、9CH、10CH、13CH、16CH モードを選択します。

簡単バックアップ

録画した映像をUSBメモリスティックやUSB HDDなどの外付けデバイスにクイックバックアップします。 “Multi-backup-viewer”ソフトウェアを使用してバックアップファイルをAVI形式に変換できます。 詳細については、“4.6 バックアップ”を参照してください。

検索

検索オプション画面を開きます。 詳細については、“3.8 録画された映像の検索”を参照してください。

再生モード終了

再生モードを閉じ、ライブモードに移動します。

メニューバー固定トグル

選択するとマウスの位置に関係なく、NVRのメニューバーが画面に永久的に表示されます。

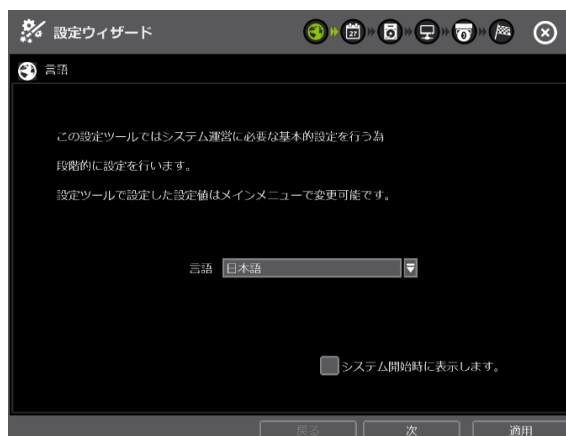
2. 起動ウィザード

NVRが初めて起動すると、設定ウィザードが表示されます。このウィザードは、NVRの最も基本的な設定を正しく設定するために役立ちます。”メニュー > システム > 設定”メニューの設定ウィザードボタンをクリックすると、いつでも設定ウィザードの画面にアクセスできます（“4.1.5 設定”を参照）。

2.1 言語

使用する言語を選択します。

[システム開始時に表示します。] が選択されている場合、システムを起動するたびに設定ウィザードがポップアップ表示されます。



2.2 日付/時刻

NVRの日付と時刻の形式を選択し、[タイムゾーン]を選択し、サマータイムを有効または、無効にし、NTPサーバとNVRを同期するか、日付と時刻を手動で入力します。NVRとNTPサーバの同期を選択することもできます。NTPサーバは、NVRの日付と時刻設定を自動的に同期します。



2.2.1. 時刻同期モード

時刻同期モードには下記の4つのタイプがあります。

- SERVER モード

動作中のNVRは、同じネットワーク環境で接続された別のNVRのタイムクロックを同期できる時刻同期サーバとして設定されます。

- CLIENT モード

“SYNC SERVER”で、指定したNVRまたはリモートソフトウェアPCのIPアドレスを時刻同期サーバとして入力します。NVRのタイムクロックは、“TIME SYNC CYCLE”で設定されたインターバルタイムによってサーバと同期されます。

- NTP SERVER モード

“pool.ntp.org”は推奨されるNTPサーバです。有効化するには、ローカルエリアのタイムゾーンを

設定し、[同期化] をクリックします。

■ GPS モード

NVRのタイムクロックはUSBタイプのGPSデバイスと同期されます。

2.3 HDD フォーマット

HDDを使用する前にフォーマットすることをお勧めします。



DISK FULL (①)

HDDがフルになったら、“上書き”または“録画中断”を選択します。

- 上書き：最も古いデータを削除し、新しいデータを録画します。
- 録画中断：録画を停止します。



HDD チェック (②)

各HDDの横のチェックをクリックすると、各HDDのモデル番号、シリアル番号、容量、BADブロック、使用時間、温度の詳細情報が表示されます。

HDD フォーマット (③)

フォーマットするHDDの隣にあるチェックボックスをオンにし、フォーマットボタンを押します。フォーマット処理中にネットワーク接続などのシステムリソースが使用されている場合、フォーマット処理が失敗する可能性があります。システムリソースを解放するには、システムを再起動してからフォーマットし直すことをお勧めします。



- ノート**
- 1) HDDのフォーマットには数分かかることがあります。
 - 2) フォーマットが完了すると、HDD内のすべてのデータが削除されます。
 - 3) システムは、ファイル保管メモリを有効に活用するために、内蔵HDDごとに一定のスペースを確保します。

iSCSI HDD サポート (④)

ネットワーク接続で iSCSI HDD を使用可能です。

2.4 ネットワーク

NVRのネットワーク設定を遠隔接続用に設定します。



ネットワークタイプ

ダイナミック IPの場合は、STATIC IPまたは、DHCPを選択します。

DHCPを選択すると、NVRは現在のネットワーク要件に従ってネットワーク設定を自動的に設定します。 DHCPが選択されている場合、[IP検索]ボタンをクリックして、すべてのネットワーク設定を自動的に検出します。

STATIC IPを選択した場合は、必要なすべてのネットワーク設定を手動で入力します。 正しく設定するには、NVR に DHCPアドレスを割り当て、適切なネットワーク設定をすべて自動検出してから、ネットワークタイプを「STATIC IP」に変更して、変更を保存することをお勧めします。 .

IPアドレス

NVR の IP アドレスを表示します。 DHCP を選択すると、IP アドレスはネットワークの要件に合わせて自動的に調整されます。 必要に応じて手動で IP アドレスを変更することもできます。

SUBNET MASK

サブネットマスクアドレスは、システムが属するサブネットを分類します。 詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

GATEWAY

これはルータまたはゲートウェイサーバの IPアドレスです。 これは、(別のネットワークから)インターネット経由で外部ルータを介して NVRに接続するときに必要です。 詳細については、ネットワーク管理者またはインターネット プロバイダーにお問い合わせください。

DNS サーバ

ドメインネームサーバの IPアドレスを入力します。 DDNS、電子メール通知および、NTPサーバを使用するには、DNSサーバ情報を入力する必要があります。 詳細については、ネットワーク管理者またはインターネット プロバイダーにお問い合わせください。

TCP/IPポート

ローカルまたは遠隔で NVRに接続するときに使用するポート番号を入力します。 デフォルトは 9010です。 ISPがポート番号9010をブロックしている場合は、別の有効なポート番号(9020など)を入力する必要があります。

Webポート

ウェブブラウザから接続するときに使用するポート番号を入力します。 デフォルトは80です。 ISPがポート番号80をブロックしている場合は、別の有効なウェブポート番号(例:8080)を入力する必要があります。

自動IP

自動IP によって割り当てられたシステム IPを自動に表示します。

転送帯域幅

ユーザの設定に応じて、システムはネットワーク経由で送信されるデータ量を25kbpsから1Gbpsまで制御できます。 この機能は、特に狭帯域のネットワーク条件下、または、使用者が“映像伝送によって占有されるネットワーク帯域幅”を一定レベルに制限する場合に効果的です。 デフォルトは100Mbpsです。

UPnPポートフォワーディング使用

UPnPは、使用者がルータでポート転送を設定しない場合でも、“自動ポート転送機能(NAT TRAVERSAL)”をサポートします。 一部のルータや一部のネットワーク環境ではサポートされない場合があります。

ネットワーク環境に基づいて必要な情報を入力します。

- ネットワークタイプ : STATIC IPを選択します。(固定 IPの場合)
- IPアドレス : ローカル IP# を NVR に割り当てる (ex, 192.168.0.164)
- サブネットマスク : LANのサブネットマスクを入力 (ex, 255.255.255.0)
- ゲートウェイ : LANのゲートウェイを入力 (ex, 192.168.0.1)
- DNSサーバ : DNSサーバのIP#を入力
インターネット接続には、このIP番号を入力する必要があります。ISPに連絡して、IP# を入手してください。IP# がわからない場合は、“8.8.8.8” と入力できます。
- TCP/IPポート : デフォルトは、9010。
ISPがポート番号9010をブロックしている場合は、別の有効なポート番号を入力する必要があります。(ex, 9020)
- ウェブポート : デフォルトは、80。
ISPがポート番号80をブロックしている場合は、別の有効なポート番号を入力する必要があります。(ex, 8080)
- 帯域幅制限 : デフォルトは、100Mbps。
ネットワークの状態を考慮して設定する帯域幅制限を選択します。

ノート 同時接続の最大数は 15ユーザです。

ノート DDNS、通知、モバイルプッシュ、P2Pクラウドなどのその他のネットワーク設定については、“4.5 ネットワーク”を参照してください。

2.5 カメラ登録/管理

[カメラ登録/管理] メニューでは、IPカメラを検索、登録、および管理できます。詳細については、“3.2 カメラの登録”を参照してください。



自動カメラ登録 (①)

NVRは、サポートされているすべてのカメラについてネットワークをスキャンし、使用可能なチャンネルに自動的に登録します。登録されているすべてのカメラに適用する録画モードを選択し、[開始]を押します。NVR は、同じネットワーク(ルータ)の下にあるすべてのカメラを検索し、それらを順番に自動的に登録します。

ネットワーク上に複数の NVRが存在する場合は、複数の NVRにカメラを接続しないように、ドラッグアンドドロップまたは、高度な設定オプションを使用することを推奨します。

Drag & Drop方式カメラ登録 (②)

[Drag & Drop方式カメラ登録]では、サポートされているカメラがネットワーク上にスキャンされ、その結果が表に表示されます。この表から、カメラを表示チャンネルにドラッグしてチャンネルに割り当てることができます。

- ① カメラを検索するには、[スタート]ボタンをクリックします。



- ② カメラを選択し、カメラをクリックしながらチャンネルにドラッグして割り当てます。
- ③ プロセスを終了するには、[適用]ボタンをクリックします。

詳細設定 (③)

ネットワーク内でカメラを検索し、手動で設定して NVRに登録します。

2.6 完了

設定ウィザードが完了したら、“完了”をクリックしてウィザードを閉じ、ライブ画面に移動します。

3. 操作

3.1 ユーザーログイン

システムの電源を入れた後、ユーザーとパスワードを入力します。工場出荷時のデフォルトのユーザーとパスワードはそれぞれ“admin”と“1234”です。管理ユーザは、NVRシステム全体を完全に制御する必要があります。



- ノート
- 1) ログインウィンドウは、ユーザが正しい IDとパスワードでログインするまで表示されます。
 - 2) NVR が自動ログオンに設定されている場合は、ログインプロセスは必要ありません。詳細については、“4.1.2 ユーザ”を参照してください。

ノート

仮想キーボードの ******* キーには、Admin、root、http://、rtsp://、www.com、.net、.org などの一般的な単語が含まれます。

3.2 カメラの登録

NVRは、ネットワーク経由で任意のONVIF® IPカメラに接続できます。カメラが NVRの背面にある PoEスイッチに接続されている場合、カメラは NVRとの間で電力を受け取り、データを送信します。

ノート

登録のための反復作業の最小化
 同じカメラが登録されていれば、IDとパスワードは必要ありません。ただし、ユーザー設定によってIDとパスワードが異なる場合、IDとパスワードが必要な機種もあります。

3.2.1. PoE カメラ接続

PoEポートにカメラを接続すると、PoEカメラが自動的に接続されます。NVRのPoEスイッチに接続されたカメラに割り当てられたチャンネルは、チャンネルタイトルを緑色で表示します。
 NVRのPoEスイッチに接続されたカメラは、NVRに接続する前に「DHCP」に設定する必要があります。
 「自動IP」をサポートするカメラの場合、NVRは IP設定を自動的に制御します。

ノート 別のカメラがそのチャンネルに割り当てられている間に PoEカメラが PoEチャンネルに接続されている場合、以前に割り当てられたカメラは別のチャンネルに移動し、PoEカメラはそのチャンネルに割り当てられます。

ノート Zero-Configuration

自動IPによるリンクローカル IPアドレス割り当て方式であり、DHCPが使用できないか、サポートされていない場合は自動的に IPを割り当てます。このテクノロジーを採用したデバイスは、一般に 169.254.xxx.xxxを選択し、選択した IPアドレスの可用性を確認してから IPアドレスを割り当てます。

3.2.2. ネットワークを介したカメラ接続



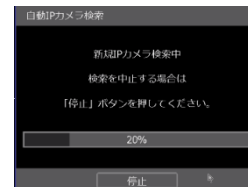
NVRはカメラを検索して NVRに登録するための3つの方法をサポートしています。自動カメラ登録オプションを使用すると、NVRはネットワークをスキャンし、最初に検出したカメラを使用可能なチャンネルに自動的に登録できます。

[DRAG & DROP方式カメラ登録]オプションを使用すると、サポートされているカメラがネットワーク上にスキャンされ、その結果がテーブルに表示されます。テーブルでは、カメラを表示チャンネルにドラッグしてチャンネルに割り当てることができます。

詳細設定およびカメラの手動追加については、[詳細設定]を選択します。

3.2.2.1. 自動カメラ登録

- ① カメラの録画モードを選択します。この録画オプションは、NVRに登録されているすべてのカメラに適用されます。
- ② [開始]をクリックします。NVRは、同じネットワーク(ルータ)の下にあるすべてのカメラを検索し、順番に自動的に登録します。



3.2.2.2. DRAG&DROP方式カメラ登録

- ① カメラを検索するには、[開始]ボタンをクリックします。NVRはネットワーク内でカメラを検索し、右側のテーブルにすべての結果を表示します。



- ② リストからカメラを選択し、カメラに割り当てるチャンネルにドラッグアンドドロップします。
(マウスポインタは移動中に次のように変更されます。)
- ③ プロセスを終了するには、[適用] ボタンをクリックします。

3.2.2.3. 詳細設定

[詳細設定]メニューでは、高度な設定オプションを持つカメラを検索したり、割り当てられたカメラを管理したり、個々の URL を使用してカメラを手動で追加したりできます。

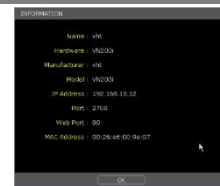
- ① ネットワーク上のすべてのカメラを検索するには、[検索] ボタンをクリックします。
自動IP(またはゼロ構成)対応のカメラの中には、NVRとは異なるIPアドレス範囲でも検索できるものがあります。
- ② リストからカメラを選択し、[ストリーム読み取り] をクリックしてカメラのストリームを読みます。



- ③ [ストリーム読み取り] ボタンを選択すると、選択したカメラにチャンネル番号を割り当てます。また、ドロップダウンオプションから特定のチャンネル番号を選択することもできます。
- ④ [カメラ情報] は、モデル名、IPアドレス、ポート、MACアドレスなど、カメラの基本情報を詳しく表示します。

ノート 情報

モデル名、IPアドレス、ポート、MACアドレスなど、カメラの詳細を確認できます。



- ⑤ [設定] では、解像度/フレーム/ビットレート/画質など、IPカメラストリームの設定ができます。
- ⑥ 選択したカメラを NVR に登録するには、[適用] をクリックします。

3.2.2.4. 手動でカメラを追加

別のネットワークの IPカメラに接続する場合は、[IPカメラ手動登録] ボタンを使用して手動でカメラを追加できます。

- ① [IPカメラ手動登録] をクリックして、カメラのプロパティウィンドウを開きます。



- ② 登録するチャンネル番号を選択します。
- ③ カメラのプロトコル(ONVIF、RTSPなど)を選択します。登録は、次のいずれかで利用できます。
- IPアドレス、RTSP(メイン/サブ)URL、または、ONVIF URL
- ④ 必要な情報を [] ボタンで入力し、[ストリーム読み取り] ボタンをクリックしてストリーム情報を取得します。

- ⑤ [適用] ボタンをクリックしてカメラを登録します。

3.3 カメラの削除



カメラメニューの [詳細設定] に移動します。(メニュー > 録画 > カメラ)

① Non-PoE Camera

削除の (X) ボタンは常に活性化されています。NVRのチャンネルから削除するには (X) をクリックします。

② PoE Camera

PoE カメラは、NVRの PoEポートに接続中には削除できません。

PoEカメラを削除するには、カメラをNVRから取り外し、(X) ボタンをクリックします。

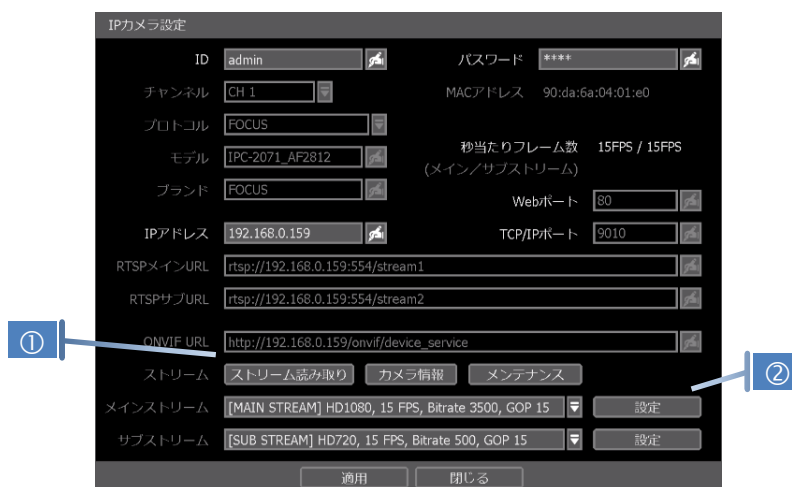
3.4 カメラの設定

登録されたカメラの設定を変更できます。

3.4.1. 各カメラの設定

[カメラ登録/管理]メニューの [詳細設定] をクリックします。(“メニュー > 録画”). カメラの横にある [設定] ボタンをクリックして、設定モードに入ります。

または、ライブビュー中に画面上の任意の場所を右クリックし、[カメラ設定]を選択すると、カメラの設定メニューにアクセスできます。



① [ストリーム読み取り] ボタンをクリックすると、現在のカメラのステータスが表示されます。

② 解像度、フレーム数、画質などを変更するには、[設定]ボタンをクリックします。

- ・ **解像度:** 使用可能なドロップダウンオプションから録画解像度を選択します。
 - ・ **秒あたりフレーム数:** ストリームの 1秒あたりのフレーム数を 0~30に設定します。
 - ・ **ビットレート:** カメラが映像送信に使用する最大ビットレート
 - ・ **画質:** 録画用画質。 品質が高いほど、録画ファイルサイズは大きくなります。
 - ・ **GOP:** イメージのグループ。 I-フレームの間隔
 - ・ **H.264 I-参照技術:** 送信されたフレームからの録画フレーム間隔。(例: x2は、2つのフレームのうち 1つのフレームを記録することを意味します。) 使用しない場合、NVRは全ての送信フレームを録画します。(カメラのマニュアルでこの設定がサポートされていることを確認してください。)
- ③ 現在のストリーミング状態 - カメラの記録モードと FPSがリアルタイムで表示されます。
- ・ **秒あたりフレーム数:** 現在の送信フレームが表示されます。
 - ・ **録画:** カメラに対して NVRが録画するストリームを表示します。



ノート I-参照技術

DVRとは異なり、NVRは IPカメラからのすべてのデータを記録します。つまり、ライブ表示のフレームレートは、記録と同じである必要があります。

但し、ユーザが I-参照技術をサポートする IPカメラを使用する場合は、別のカメラにすることができます。つまり、ユーザはフルフレームでライブ表示を監視し、それを低いフレームで記録することができます。

- ‘H.264 I-参照技術’を“4X”に設定すると、4フレームのうち 1フレームが記録されます。
- ‘H.264 I-参照技術’を“2X”に設定すると、2フレームのうち 1フレームが記録されます。
- フレームレートとGOP (イメージのグループ) の設定にも関連しています。

例1) FPS: 30、GOP: 30、I-参照技術: 4X → 録画フレームは約 7.5fpsです。

例2) FPS: 15、GOP: 30、I-参照技術: 4X → 録画フレームは約 3.7fpsです。

- ライブモニタリングフレームレートを落とさずに録画期間を延長する場合に便利です。

3.4.2. 簡単設定

複数のカメラを同時に同じ録画で設定できます。

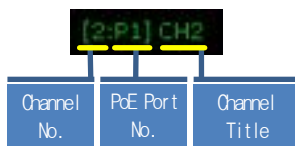


- ① 設定するモデルを選択します。 同じモデル名のカメラがすべて選択されます。
- ② [ストリーム読み取り]ボタンをクリックして、現在のストリーム情報を取得します。
- ③ [情報取得]ボタンをクリックし、カメラの現在の設定を確認します。
- ④ 設定を変更して [保存]をクリックします。
- ⑤ 完了すると、“1個のカメラが成功的に適用されました。”とメッセージが表示されます。

3.4.3. チャンネルの変更

ライブ画面からドラッグアンドドロップでチャンネルを変更できます。

カメラをクリックし、新しいチャンネルにドラッグして、カメラを選択します。ドラッグ中にマウスポインタは  に変更されます。PoEカメラの場合、チャンネルタイトルは次の例のように表示されます。



3.5 ライブディスプレイモード

3.5.1. チャンネルの選択

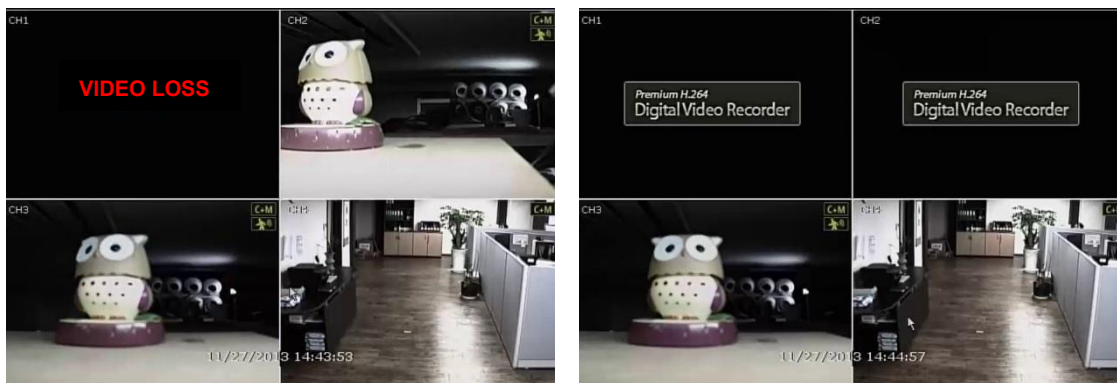
ライブ映像は電源投入後の簡単なボタン操作で見ることができます。映像は、1、4、9、および 16の画面分割で確認できます。（一部の分割オプションは、NVRのチャンネル数によって使用できない場合があります。）

ツールバーの画面表示モードボタン () をクリックすると、次のチャンネルまたは一連のチャンネルが表示されるように画面が変更されます。

マルチチャンネルビューから1つのカメラに切り替えるには、選択したチャンネルをクリックします。前の画面モードに戻るには、マウスの左ボタンを再度クリックします。

カメラが接続されていないか、突然切断されると、“VIDEO LOSS”と表示されます。カメラの接続を解除すると、システムの設定に応じて警告音が鳴ります。

adminの権限を持ったユーザは、ユーザごとに異なる許可レベルを設定して、特定のチャンネルに特定のアクセスを許可できます。あるユーザがチャンネルの表示を許可されていない場合、以下のように表示画面には映像が表示されません。



3.5.2. アイコン

ライブモードでは、システムモードまたはステータスを通知するアイコンが画面に表示されます。

各チャンネル画面の右上隅に表示されるアイコン		全画面の右上隅に表示されるアイコン	
	連続録画		HDDが認識されない
	モーション検知録画		緊急録画が使用中
	アラーム録画		PTZが使用可能
	連続録画 + モーション録画		温度超過の警告
	連続録画 + アラーム録画		シーケンスモードが使用可能
	モーション録画 + アラーム録画		デジタルズームが使用可能
	緊急録画		
	アラーム活性化		
	モーション活性化		
	音声チャンネル		

	PTZカメラ		
	POS		

ノート 画面の右隅に録画アイコンが表示されない場合は、システムは録画していません。メインの設定メニューで録画スケジュールまたはカメラを確認します。

3.5.3. ポップアップメニュー

マウスの右ボタンをクリックすると、以下のサブメニューが表示されます。特定のチャンネルを制御する場合は、そのチャンネルにマウスカーソルを置いてから、右ボタンをクリックします。

画面モード

画面表示モードは、使用可能なスプリットオプションから変更できます。

次のチャンネルへ

現在のスプリットモードで、次のチャンネルまたは、次のカメラグループを表示します。

自動切替

“自動切替”を選択すると、画面右下隅に **SEQ** アイコンが表示されます。表示画面が順次変更されます。

デジタルズーム

- デジタルズームはシングルチャンネルビューでのみ使用できます。[デジタルズーム]を選択すると、画面の右ボタン隅に **ZOOM** アイコンが表示され、デジタルズームコントロールを使用できます。
- ズームインするには、マウスのカーソルを目的領域にドラッグしてズーム領域を作ります。マウスホイールを上下にスクロールさせてズームイン&ズームアウトを制御することもできます。画像をズームインすると、領域のエッジをクリックしてドラッグすることで、ズーム領域を移動できます。
- ズームモードを終了するには、右をクリックします。

カメラ画質調整

カメラの画像調整メニューを表示します。（“4.2.1 カメラ”を参照）明るさ、対比、色などの画質を調整できます。使用可能なオプションは、カメラの 0 NVIF統合によって異なります。詳細については、カメラのマニュアルを参照してください。

PTZ

PTZモードを有効にします。（詳細は“3.6 PTZ 動作”を参照してください。）使用可能な PTZオプションは、カメラの ONVIF統合によって異なります。詳細については、カメラのマニュアルを参照してください。

カメラ設定

カメラの設定メニューが表示されます。（各カメラの設定については“3.4.1 各カメラの設定”を参照してください。）

解像度やフレームなどを設定できます。

画面フリーズ

ライブビューをフリーズします。システム時計(日付/時刻情報)は画面下部のまま実行されます。ライブビューを再開するには、マウスの右クリックで[画面フリーズ]を再度選択します。

ブックマーク追加

表示されているイメージに説明付きのブックマークを追加します。ブックマークメニューが表示されたら、説明を入力し、[OK]をクリックして保存します。



再生

特定の時間（10秒前/15秒前/30秒前/60秒前/2分前/3分前/5分前）を選択し。再生モードに切り替えます。

検索

カレンダー、日付/時間、最初のデータ、最後のデータ、システムログ、イベントログ、ディスクログ、POS、ブックマークのオプションを使用して、録画された映像を検索します。（詳細については、“3.8. 録画

された映像の検索”を参照してください。

スマート検索

録画した動画を分割画面モードで時間と分単位で検索します。
サムネイル検索または、高度なプレビュー検索モードがサポートされています。

特殊カメラ検索

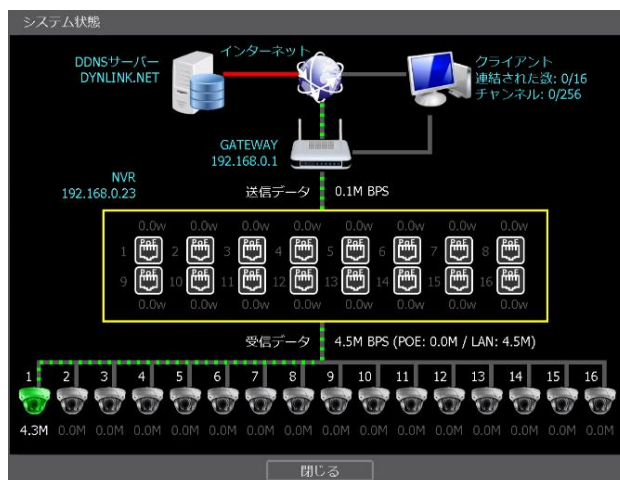
AI画像処理カメラのイベント検索ができます。
使用方法については各AIカメラのマニュアルをご参考にしてください。

映像保存情報

保存期間、一日平均容量(平均)、現在保存日数、予想保存日数について録画情報を確認できます。

システム状態

ネットワーク状態、NVRに接続されているクライアントの数、PoEカメラ接続など、システムのステータスを確認します。 緑色の線は、接続が稼働中であり、動作していることを示します。



分析

各チャンネルおよびシステム全体のシステム性能、ネットワーク条件などを確認します。PoEカメラのステータスも確認できます。



顔認識

顔認識機能を設定します。顔情報を追加・編集し、アラーム機能と顔認識オプションを設定して顔ログを検索します。

ナンバープレート認識

車両用ナンバープレートマネージャを設定し、LPRログをアラームおよび検索します。

自己診断

システム、ネットワーク、カメラ、HDDの情報を表示し、電子メールで送信します。
どの情報を表示し、チェックサイクル時間を設定するかを選択します。

メニュー

メインメニューの設定画面を開きます。

3.6 PTZの動作

PTZカメラを操作するには、PTZカメラに接続されているチャンネルが全画面モードになっている必要があります。PTZコントロールを有効化にするには、右クリックしてポップアップメニューの [PTZ] を選択します。

PTZモードでは、画面の右ボタン隅に **PTZ** が表示されます。



PTZ コントロール

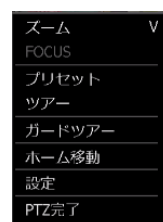
PTZモードでは、USBマウスで PTZカメラを制御できます。左ボタンを押しながら、マウスのカーソルを上下または、左右にドラッグして、カメラのパン/チルト位置を移動します。マウスのカーソルが中心から遠ざかるほど、PTZカメラは速く動きます。カメラをプリセット位置に移動するには、画面下部のプリセット位置番号をクリックしてカメラを移動します。プリセットは選択前に設定する必要があります。



ノート USBマウス、またはキーボードコントローラを使用して、完全なPTZ機能を利用できます。機能の可用性は、カメラの ONVIF 統合によって異なります。詳細については、カメラのマニュアルを参照してください。

ズーム/FOCUS

マウスのホイールを上下に回転させてズームイン/ズームアウトします。モードが“フォーカス”に変更されると、マウスのホイールを回すことでカメラのフォーカスを制御できます。



プリセット

プリセットメニューが表示されたら、プリセット番号を選択し、“Enter”をクリックして対応するプリセット位置に移動します。サポートされる最大プリセット数は 255です。

ツアー

ツアー機能を有効にします。“ツアー”が始まると、カメラが順番にプリセット位置に移動します。ツアーをオフにするには、画面を右クリックして「ツアー」を選択します。



ガードツアー

有効にすると、カメラは、GARD TOUR 設定で設定されたプリセット シーケンスに従って自動的に位置を切り替えます。詳細については、“4.2.3. PTZ”を参照してください。

注意 各プリセット位置に間隔を設定できます。カメラがインターバル時間内に機械的に移動したりフォーカスを制御できない場合、プリセットの一部がスキップされることがあります。

ホーム移動

カメラは、PTZデバイスに保存されている元の位置に移動します。

設定

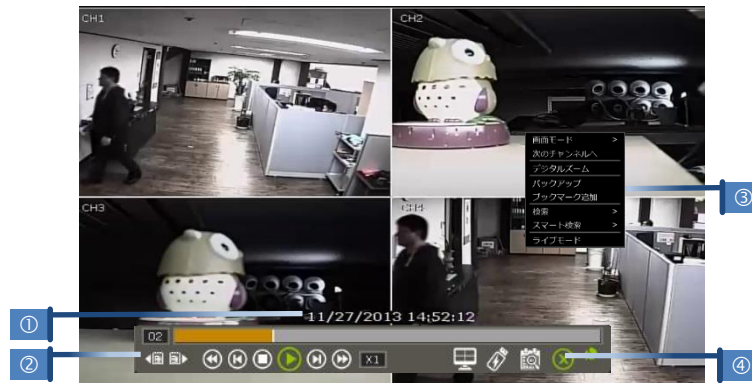
PTZ セットアップメニューに移動します。（“4.2.3. PTZ”を参照してください。）

PTZ完了

PTZコントロールモードを閉じます。

3.7 録画された映像の再生

録画された映像を再生するには、メニューバーの再生アイコン (🔍) を押します。NVRは再生モードに移行すると、自動的に最新の記録映像を再生します。



日付/時刻(①)

表示されている映像の日付と時刻を表示します。

ツールバー (②)

再生制御、録音データ チェック、スクリーン モードなどが含まれます。(詳細は、“1.4.4. ライブモードのツールバー”を参照してください。)

ポップアップメニュー (③)

- ◆ 画面モード: 表示モードを変更します。(1~16 画面モード)
- ◆ 次のチャンネルへ: 次のチャンネルを表示します。
- ◆ デジタルズーム: デジタルズームを有効と無効にします。(シングルチャンネルビューで利用可能)
- ◆ バックアップ: バックアップウィンドウを開きます。
- ◆ ブックマーク追加: 現在の映像にブックマークを追加します。
- ◆ 検索: さまざまな条件で録画データを検索します。(詳細は “3.9 録画された映像の検索”を参照してください。)
- ◆ スマート検索: 録画した動画を分割画面モードで時間と分単位で検索します。
- ◆ ライブモード: ライブモードに移動します。

再生モード終了 (④)

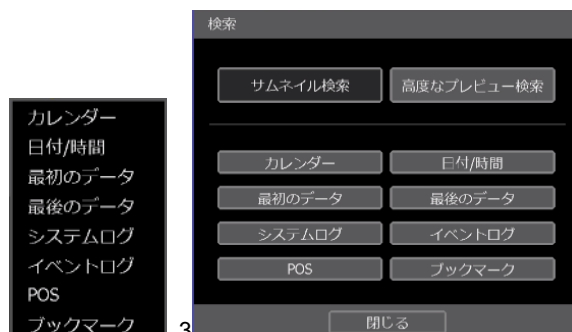
メニューバーの 終了アイコン  をクリックするとライブビューに戻ります。

3.8 録画された映像の検索

録画された映像を日時、最初と最後のデータ、イベント、ブックマークなどで検索します。

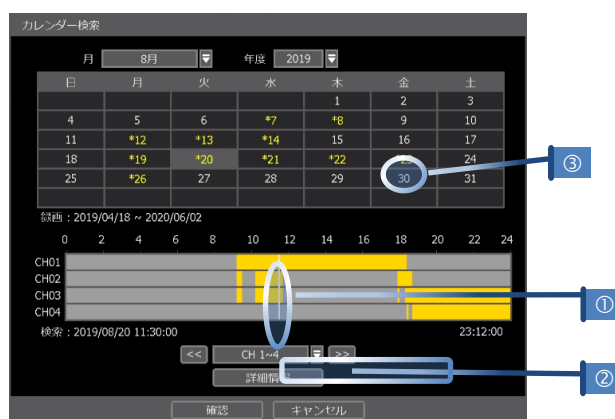
ノート 検索オプションメニューを開始するには:

- ① 再生モードで、右クリックしてポップアップ メニューに入り、検索メニューを選択します。
- ② ライブモードで画面下部のツールバーの検索ボタン  を押します。



3.8.1. カレンダー

特定の日付と時刻のデータを検索するには、日付と時刻を選択します。



白い縦線(①)を検索したい時刻に移動します。

タイムバーの色は、さまざまな録画モードを表します。 詳細については、「4.4.2 録画日程」を参照してください。 タイムバーには一度に4つのチャンネルが表示されます。 次の4つのチャンネルを確認するにはウィンドウ(②)下部のグルー プボタンを押します。

日付(③)の “*” マークは、録画ビデオが使用可能な日を示します。

3.8.2. 日付/時刻

カレンダー画面に目的の日付と時刻を入力します。

矢印ボタンまたはマウスを使用して、年/月/時/分/秒を選択するための各月/日/時間カテゴリに移動します。

録画されたデータがある日は黄色でハイライトされ、その横に“*”が表示されます。



3.8.3. 最初のデータ

録画された映像の最初の画面に移動します。 これは録画された最も古い映像です。

3.8.4. 最後のデータ

録画された映像の最後の画面に移動します。 これは録画された最新の映像です。

3.8.5. システムログ

システム、設定、ネットワークの特定のシステムログ情報を検索します。



- ① 検索する日付を選択します。
- ② ログタイプを選択します。個々のイベントまたは、すべてのイベントを一度に検索できます。
- ③ リスト内の検索結果を表示するには、[検索]をクリックします。
- ④ [保存]をクリックして、リストをUSBメモリなどの外部デバイスに”.txt”ファイルとしてコピーできます。

3.8.6. イベントログ

センサーの起動、モーション検出、ビデオ損失、HDDフルまたは、温度アラームなどの特定のイベントを確認します。 イベントもキーワードで検索されます。



- ① 検索する日付を選択します。
- ② ログタイプを選択します。 個々のイベントまたは、すべてのイベントを一度に検索できます。
- ③ リスト内の検索結果を表示するには、[検索]をクリックします。
- ④ [保存]をクリックして、リストをUSBメモリなどの外部デバイスに”.txt”ファイルとしてコピーします。

ノート アラーム入力設定を行ってもアラームが有効にならない場合は、背面パネルのアラーム接続ポートを確認してください。

ノート [システムログ]ウィンドウと[イベントログ]ウィンドウの1ページに20個のログ記録が表示されます。 矢印ボタン(◀ ▶)をクリックして、別のページのログ記録を検索できます。

3.8.7. POS

検索情報(チャンネル番号、日付、時間、キーワード)を入力し、[検索]をクリックして検索結果を表示します。 結果をフィルタリングするには、キーワードを入力します。 [再生]をクリックして、映像とPOSデータを再生します。

[illegible]

3.8.8. ブックマーク

ブックマーク検索を使用すると、ブックマークの確認、変更、削除を行うことができます。 検索結果リストからブックマークを選択し、「再生」ボタンで映像を表示します。

3.9 スマート検索

録画した映像は、分割画面モードで時間単位または、分単位で検索できます。
スマート検索は、サムネール検索と高度なプレビュー検索の2つのモードをサポートしています。

3.9.1. サムネイル検索

日付を選択すると、その日にチャンネルの24画面(1時間単位)の画像を表示します。
また、特定の時間(画面イメージ)を選択して分単位ボタンをクリック(または画像をダブルクリック)すると、その時間に60個の画面イメージ(1分単位)を表示します。
サムネイル検索機能により、イベントを簡単にかつ迅速に検索し、その瞬間の録画映像を再生できます。
サムネイル画像の枚数、各画像のサイズは増減可能で、最大No. は196(14×14)で、解像度によって異なります。
サムネイル検索モードでは、検索日時や表示単位(時間/分)を変更し、直接再生モードに移行できます。

スマート検索・サムネイル検索

検索する日付を選択してください。

月 年度 チャンネル

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	*7	*8	9	10
11	*12	*13	*14	15	16	17
18	*19	*20	*21	*22	*23	24
25	*26	27	28	29	30	31

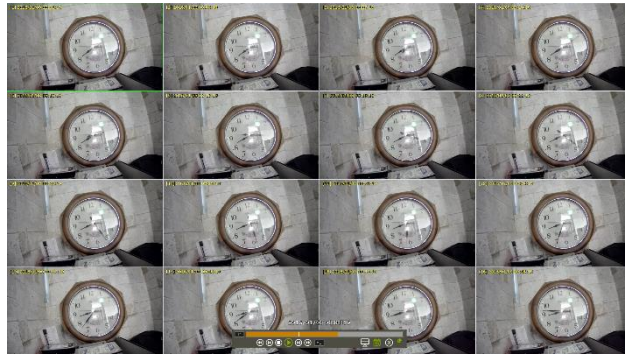
録画：2019/04/18 ~ 2020/06/02



3.9.1. 高度なプレビュー検索

日付が選択され、間隔が設定されると、選択したチャンネルの録画映像をマルチスクリーンモードで同時に再生します。

間隔は 1分から 1日に設定できます。

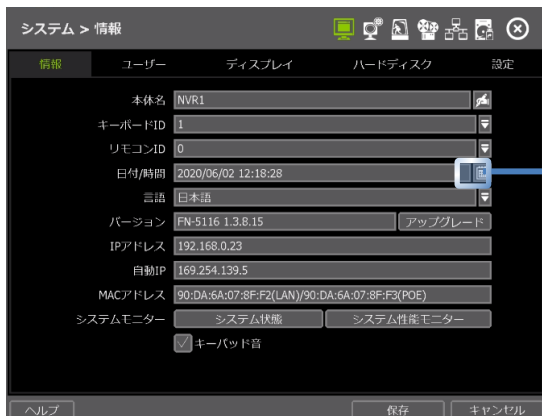


3.10 DST(夏時間)設定と映像の再生

DSTはローカル時刻の3月第2週の日曜日午前1時から開始し、11月第1週の日曜日の午前0時に終了します。DST中は、地域の時間帯に応じてNVRのクロックを調整する必要があります。DST設定が開始されてから1時間後にNVRの時刻が変わり、DST終了後にNVRがタイムクロックを通常の状態に戻します。

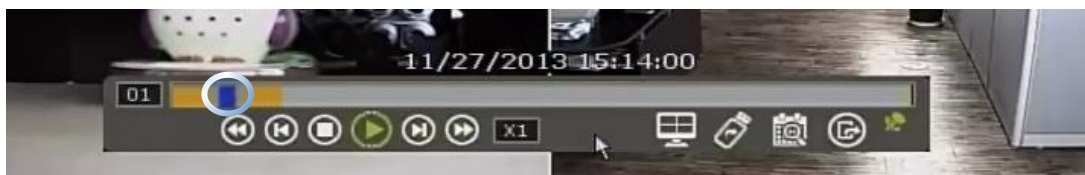
3.10.1. DST 設定

DST設定を有効にするには、システム > 情報 にアクセスし、“日付/時間” をクリックします。
[DST使用]を選択して、DSTの時刻変更を適用します。(DSTを有効にするには、DST設定を許可する適切な時間帯を選択します。)



3.10.2. DST 映像の再生

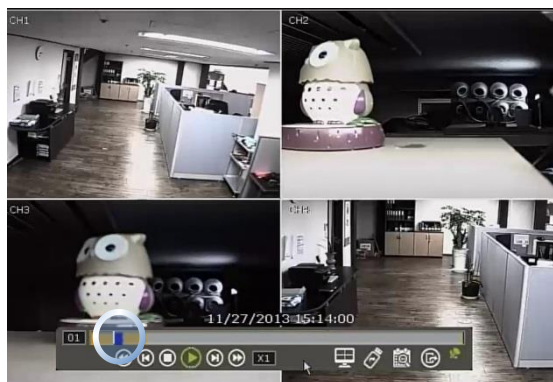
DSTによりデータが重複する時間が1時間ある場合、再生中にプログレスバーの青で重複する時間が示されます。



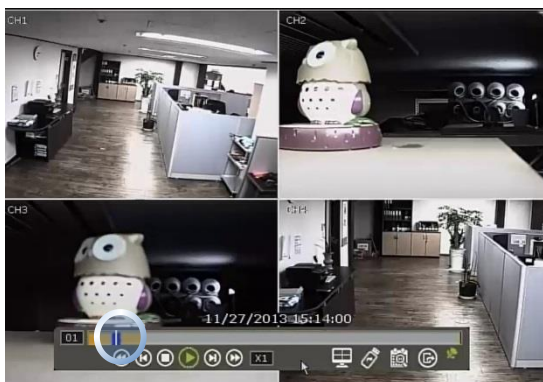
重複した時刻からデータを再生するには、プログレスバーで時間を選択します。“データ選択”メッセージが表示されます。DSTデータと非DSTデータのどちらを再生するかを選択します。

DST映像を再生するには、[OK]をクリックします。

[キャンセル]をクリックして、非DST映像を再生します。



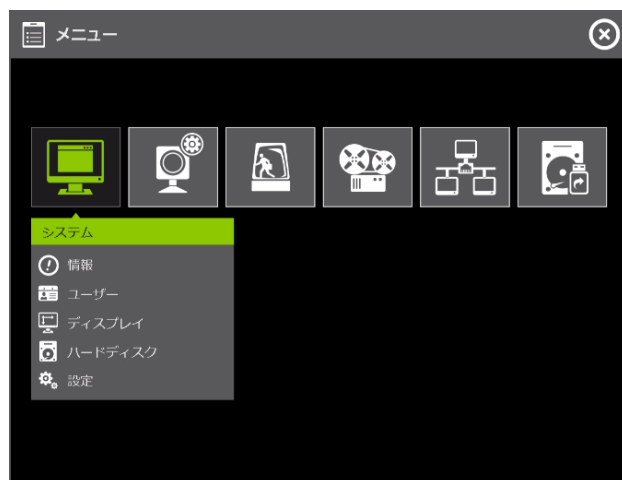
[“DST” 映像が表示されます。]



[“非DST” 映像が表示されます。]

4. 設定

一般的な設定構成は、“システム”、“デバイス”、“アラーム”、“録画”、“ネットワーク”、“バックアップ”です。各設定メニューは、サブメニューと追加カテゴリで構成されています。



メイン項目	サブ項目
システム	情報
	ユーザー
	ディスプレイ
	ハードディスク
	設定
デバイス	カメラ
	オーディオ
	PTZ
	POS
	キーボード
アラーム	センサー
	カメラアラーム
	その他アラーム
録画	カメラ登録/管理
	録画日程
	簡単設定
ネットワーク	ネットワーク
	DDNS
	通知
	モバイル通知
	P2P
バックアップ	バックアップ

セットアップメニューにアクセスするには、メニューバーの  ボタンをクリックするか、画面の任意の場所を右クリックしてセットアップを選択します。

4.1 システム

4.1.1. 情報

本体名

サイト名を入力して、NVRを他のサイトと区別します。

キーボードID

キーボードコントローラのID設定に合わせてサイトIDを設定します。キーボードモデルとボーレートは、“メニュー > デバイス > キーボード”で設定する必要があります。（“4.2.5 キーボード”を参照）

リモコンID（オプション）

NVRを制御するには、REMOTE IDを IRリモコンの ID設定と一致するように設定する必要があります。

日付/時間

使用可能なオプションを使用して、日付と時間を手動で調整し、日付と時間の表示モードを選択し、適切な時間帯を選択します。必要に応じて、[DST使用]ボックスをオンにします。

時間同期モードには4つのタイプがあります。

- ◆ サーバモード
動作中のNVRは、同じネットワーク上で他の NVRが接続されている時間を同期できる時刻同期サーバとして設定されます。
- ◆ クライアントモード
指定したNVRまたはリモートソフトウェアPCのIPアドレスを“同期サーバ”で時刻同期サーバとして入力します。NVRのタイムクロックは、“時刻同期サイクル”で設定された間隔時刻によってサーバと同期されます。
- ◆ NTPサーバモード
“pool.ntp.org”は推奨される NTPサーバです。有効にするには、ローカルエリアのタイムゾーンを設定し、[Sync NOW]をクリックします。

DST 設定については、“3.10.1 DST 設定”を参照してください。

■ GPSモード

NVRのタイムクロックはUSBタイプのGPSデバイスと同期されます。

ノート [ヘルプ] ボタンを使用すると、いくつかの重要な設定を行う方法を理解できます。
例えば、日付/時間の設定方法についてヘルプが必要な場合は、メニューの右下にある [ヘルプ] ボタンをクリックします。

言語

使用言語を選択します。

バージョン

NVRの現在のファームウェアバージョンを表示し、DVD/CD/USBメモリスティック/FTPサーバを使用して新しいバージョンにアップデートします。

注意 **ファームウェアのアップグレード中に [キャンセル] をクリックしないでください。システムに重大なダメージを与える可能性があります。**
設定は工場出荷時のデフォルトに変更できます。ファームウェアのアップグレード後に、NVR の設定と動作状態を確認することを推奨します。

USBメモリスティックを使用したシステムファームウェアのアップグレード方法：

1. ファームウェアファイルがFAT/FAT32でフォーマットされたUSBメモリをNVRのUSBポートに挿入します。(USB 2.0に対応)
 2. ドロップダウンオプションから 'USB' を選択し、[スキャン] ボタンを押します。
 3. USBメモリが検出されると、[現在バージョン] と [当たりバージョン] の下にファームウェアファイルが表示されます。
 4. [開始] をクリックしてアップグレードプロセスを開始します。
- (*) 分割USBメモリの使用は使用できません。**

FTPサーバを介した Digital Watchdogの自動ファームウェアアップグレードを使用したシステムのアップグレード：

- ① [方法] のドロップダウンオプションで FTPを選択します。
- ② デフォルトの FTP情報(ホストアドレス、ユーザ名とパスワード)を次に示します。独自の FTPサーバを運用する場合は、製造元に事前に相談する必要があります。
- ③ チェック時間を入力します。システムは、FTPサーバに新しいファームウェアが毎日設定された時刻に自動的にチェックされます。

ファームウェアアップグレード

モデル FN-5116 1.3.8.15

① 方法 FTP

デバイス

ホストアドレス 0.0.0.0

ユーザー/パスワード anonymous

現在バージョン 1.3.8.15

新しいバージョン

ファイル名

チェック時間 なし

進行状況 0%

アップグレードが進行されている途中に、
デバイスを取り外したり電源を落とさないでください。

② スキャン

③ チェック

④ 保存

⑤ 開始

⑥ キャンセル

- ④ [保存]ボタンをクリックして、ファームウェアの自動アップグレードを実行します。完了すると、システムが再起動します。
- ⑤ [チェック]をクリックして、NVRが FTPサーバに接続できるようにし、最新のファームウェアバージョンを確認します。新しいファームウェアが使用可能になった場合、アップグレードするかどうか尋ねられます。
- ⑥ [保存] をクリックして確認し、[開始]をクリックしてアップグレードを開始します。

IPアドレス

NVRの現在の IPアドレスを表示します。“メニュー>ネットワーク>ネットワーク”で設定できます。

自動IP

AUTO IPアドレスを表示します。

MACアドレス

NVRの一意の ID番号を表示します。

システムモニター

システムの現在のステータスを表示します。システム性能とシステム性能モニター項目で確認できます。

キーパッド音

キーパッドのビープ音をオン/オフできます。

4.1.2. ユーザー

Adminユーザ(デフォルトパスワードは 1234)は、システム設定に対する完全な権限を持ち、システムパスワードを変更したり、ユーザを追加または削除したりして、ユーザに異なる権限レベルを割り当てることできます。

ノート 管理者を含む最大ユーザ数は 16です。

ユーザー管理

ユーザー管理は、各機能の許可を制御できます。この認可は、ユーザーがリモートソフトウェアから NVRに接続する場合にも適用されます。



① 追加と変更

新しいユーザーを追加するには、[追加]をクリックします。新しいセットアップウィンドウで、新しいユーザーの ID、説明、およびパスワードを設定します。対応する機能の横にあるチェックボックスをオンにして、ユーザーがアクセスできる機能とメニューオプションを選択します。ライブと再生モードでは、選択したチャンネルだけがユーザーに表示されます。

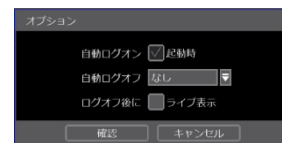
設定を変更するには、ユーザーを選択して [変更]をクリックします。

② 削除

名前を強調表示してリスト内のユーザーを選択し、[削除]をクリックします。

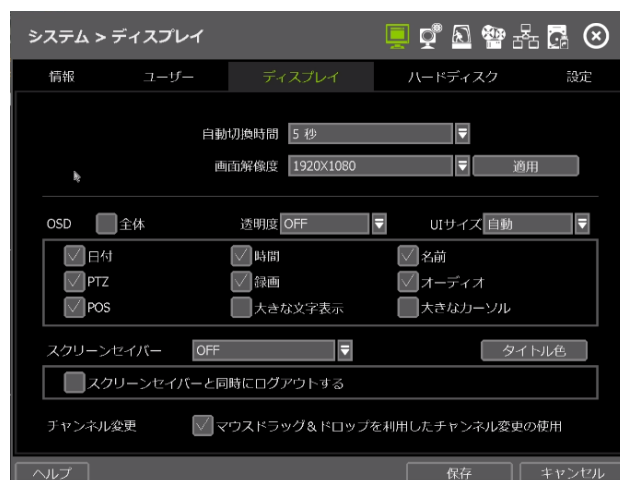
③ オプション

- 自動ログインの“起動時”がチェックされている場合、電源投入後に ID とパスワードを要求しません。
- もし、[自動ログオフ]が有効の場合、非アクティブに設定された時間が経過すると、現在のユーザーをログオフします。
- [ログオフ後に]-[ライブ表示]オプションにチェックされている場合、ログオフ後にライブ画面を表示します。



4.1.3. ディスプレイ

自動切換時間、画面解像度、OSD表示オプションなどを設定できます。



自動切換時間

シーケンシャルチャンネル表示の待機時間を設定します。

画面解像度

システムは、1024x768、1280x720、1280x1024、1920x1080、2560x1600、3840×2160の解像度をサポートしています。モニタの解像度に応じて適切な解像度を設定します。

OSD

チェックボックスをオンにして、ディスプレイに表示する情報を選択します。
OSDの透明性を設定します。

スクリーンセイバー

スクリーンセイバー機能は、一定の時間に製品を使用しないときにオフにすることによって、NVRの画面とデータを保護します。モニタが自動的にオフになるまでのスクリーンセイバーの待機時間を設定します。1～180分に設定してください。必要に応じて、スクリーンセイバーがオンになっているときに現在のユーザをログオフすることを選択します。

チャンネル変更

チャンネルをドラッグアンドドロップでスワップするかどうかを確認します。

4.1.4. ハードディスク



DISK FULL (①)

HDDが一杯になったら、“上書き”するかまたは、“録画中断”するかを選択します。

- 上書き : 最も古いデータを削除し、新しいデータを記録します。
- 録画中断 : 録画を中止します。

チェック (②)

各HDDの横にある[チェック]をクリックして、HDD状態確認ウィンドウを開きます。各HDDのモデル名、シリアル番号、容量、BADブロック、使用時間、温度などの詳細情報を参照してください。



注意

警告メッセージ

システム内の温度が最適範囲を超えると、システムの高レベルの安定性を実現するために、高温の警告メッセージが表示されます。この問題は、換気ファンの誤動作が原因である可能性があります。冷却ファンが正しく動作しているか、システム周辺の温度が適切に保たれているかを調べてください。

フォーマット (③)

新しいHDDを取り付けた場合、または、HDDに問題がある場合は、HDDをフォーマットすることをお勧めします。

HDDフォーマットの処理中にネットワーク接続中など、システムリソースが使用されている場合、フォーマットが失敗することがあります。システムを再起動してシステムリソースを解放してから、フォーマットを再試行します。

HDD名の横にあるチェックボックスをオンにしてフォーマットボタンを押して、フォーマットするHDDを選択します。



ノート

- 1) HDDのフォーマットには数分かかることがあります。
- 2) フォーマットが完了すると、HDD内のすべてのデータが削除されます。
- 3) システムは、保管メモリを有効に活用するために、内蔵HDDごとに一定のスペースを確保します。

iSCSI (④)

iSCSI外部HDDはネットワーク経由で追加できます。

*iSCSI Setup

① iSCSI HDD 管理



② iSCSIのIPアドレスを検索します。

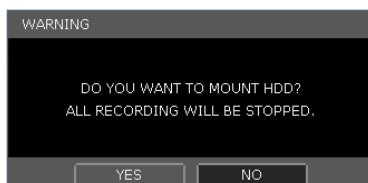
③ 接続するHDDを1つ以上選択し、[接続]をクリックします。



④ HDDが接続されると、ステータスが“Active”になります。

(HDDがID&パスワードで保護されている場合は、正しいIDとパスワードを入力してください。)

⑤ ステータスを確認したら、[Save]をクリックします。 その後、次のメッセージが表示されます。 システムが iSCSI HDDを登録している間に、録画が停止します。

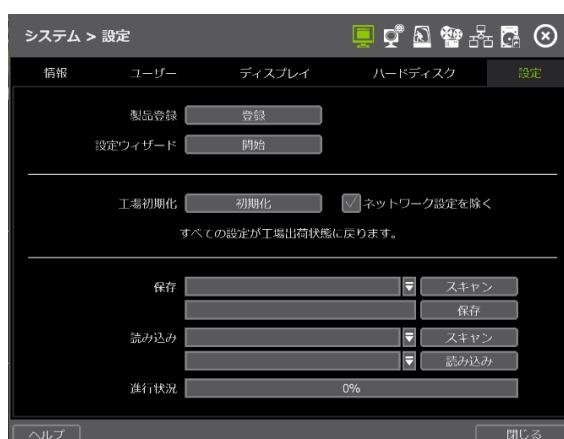


⑥ iSCSI HDDを登録すると、ローカルHDDと同じように使用できます。 iSCSI HDDがモデル名の前に[iSCSI]と表示されます。



ノート iSCSI (Internet Small Computer System Interface) は、データストレージデバイスをコンピューティング環境で接続する IP ベースのストレージネットワーキング標準です。iSCSI は、IP ネットワークを介して SCSI コマンドを送信し、データ送信を容易にするため、長距離領域にあるストレージデバイスの管理に使用されます。iSCSI は、データストレージと再接続をサポートします。場所を問わずカバーできます。

4.1.5. 設定



製品登録

製品の情報をサーバに登録できます。テクニカルサポートが必要なときに迅速に対応できます。

設定ウィザード

設定ウィザードを手動で起動します。

工場初期化

工場出荷時のデフォルト設定に初期化します。工場出荷時のデフォルトの設定が完了すると、すべての設定が削除され、システム設定が工場出荷時のデフォルトに戻ります。録画された映像は削除されません。

保存/書き込み

システム設定値をコピーして、記録を保存するか、別の NVR にコピーします。

- 保存：設定を USB メモリデバイスにコピーします。
- 書き込み：別の NVR から CD/DVD/USB メモリを使用して設定をインポートします。

インポートプロセス前に、ソース NVR の F/W バージョンがターゲット NVR と同じであることを確認します。

4.2 デバイス

4.2.1. カメラ

各カメラのタイトル、チャンネル非設定、プライバシー設定、カメラ設定を行います。





ノート NVRからこれらの機能を設定するには、OnVIFで設定を統合する必要があります。カメラが OnVIFで、設定が OnVIFで統合されていない場合は、カメラのメニューからカメラの設定を行う必要があります。

名前

各チャンネルの名前を指定します。この名前は、NVRと遠隔ソフトウェアの両方に表示されます。

非表示

“非表示”は、カメラの表示や再生をまるでカメラの録画がないかのように隠します。非表示の設定は、NVRと遠隔ソフトウェアの両方でライブビューと再生ビューの両方に適用されます。

プライバシー設定(①)

ライブおよび再生モードで、カメラの視野角(FoV)内の特定領域を非表示にします。お使いのカメラがこの機能をサポートしていることを確認してください。

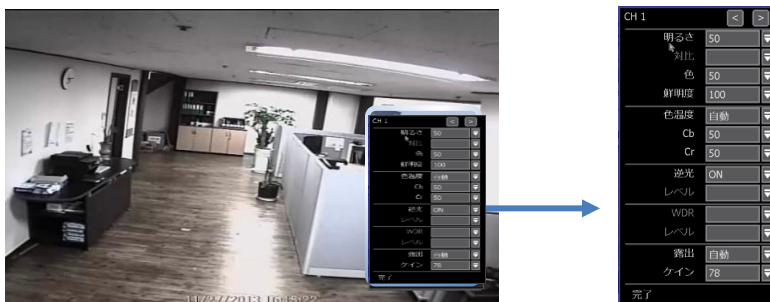
1. [設定] をクリックして設定モードに入ります。
2. 右下のポップアップメニューを使用して、プライバシー設定を配置する場所を選択し、色とインデックス番号を割り当てます。[保存]をクリックして変更を保存し、[完了]をクリックしてメイン設定ページに戻ります。



カメラ設定(②)

カメラの明るさ、対比、色などを設定します。

1. [カメラ設定]セクションの [設定]をクリックしてセットアップ画面を表示します。



2. ドロップダウンメニューオプションを使用して、適切なオプションを調整します。
3. [保存] をクリックして変更を保存します。
4. 矢印ボタンを使用して次のチャンネルに切り替えます。 (< >).
5. カメラの表示に変更が自動的に適用されます。
6. [すべて適用]では、すべてのチャンネルの値が同じになります。
7. [完了]をクリックして終了します。

4.2.2. オーディオ

ライブ表示中の音声入出力を選択し、特定のチャンネルと照合します。オーディオチャンネルの数は、NVRモデルによって異なる場合があります。システム設定に応じて、ライブディスプレイと再生モードの両方でオーディオ音が聞こえます。

“両方向オーディオ使用”をチェックすると、両方向オーディオ機能を使用できます。



4.2.3. PTZ

このメニューではPTZカメラのフルコントロールが可能です。PTZカメラの動作の詳細については、“3.6 PTZの動作”を参照してください。

次の項目をチェックして、P/T/Z が正しく動作することを確認します。

- ・カメラが ONVIFプロトコルで NVRに接続されている場合、[プロトコル]フィールドで ONVIF PTZが選択されていることを確認します。
- ・カメラがRS-485ケーブルで接続されている場合は、RS-485ポート経由で PTZカメラとシリアル通信が正しく設定されていることを確認します。プロトコル、ボーレート、およびカメラのアドレスは、NVRで設定されたアドレスと一致する必要があります。

手順

Pelco-D プロトコルを使用した PTZ カメラの設定方法（例題）

- 1) RS-485ポートを介して PTZカメラとシリアル通信することを確認します。
- 2) プロトコルリストで“Pelco-D”を選択し、アドレスを設定します。
- 3) [保存]ボタンをクリックして、設定を確認します。



プロトコル

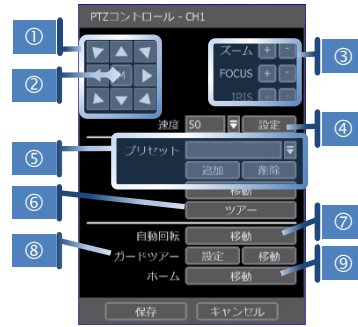
接続されている PTZカメラに適したプロトコルを選択します。カメラが OnVIFプロトコルを介してネットワーク経由で NVRに接続されている場合、このフィールドは適用されません。

ボーレート

ボーレートレベルを2,400～57,600bpsの範囲で選択します。カメラが OnVIF プロトコルを介してネットワーク経由でNVRに接続されている場合、このフィールドは適用されません。

アドレス

接続されているカメラのPTZドライバアドレスを設定します。PTZと同じである必要があります。カメラが OnVIF プロトコルを介してネットワーク経由でNVRに接続されている場合、このフィールドは適用されません。



コントロール(カメラのモデルとサポートされる機能によって異なります。)

[設定] ボタンをクリックすると、PTZカメラの OSD メニューがモニタに表示されます。 PTZ の速度、プリセット、ツアー、自動回転などを設定します。

- ① 方向ボタン：カメラを上下左右に動かします。
- ② M (PTZ 機種によります。)：カメラの OSD メニューをモニタに表示/非表示にします。メニューオプションを移動するには①の方向ボタンを使用します。
- ③ ズーム/FOCUS/IRIS：各機能に対する+/-の制御(カメラのモデルと機能によって異なります。)
- ④ 速度：PTZ 速度(0～100)を変更します。これは、仮想ジョイスティックを使用して NVR から制御した場合にカメラが移動する速度を設定します。[保存]をクリックして変更を保存します。
- ⑤ プリセット
 - ◆ 追加：カメラの位置を動かして、目的の位置にズームします。 [追加] ボタンを使用してプリセット番号を選択します。 [追加] を押して、新しいプリセットを保存します。(システムは、1～255のプリセット数をサポートします。)
 - ◆ 削除：選択されているプリセットを削除します。
 - ◆ 移動：番号を入力し、[移動] キーを押して、カメラをその番号のプリセット位置に移動します。
- ⑥ ツアー：カメラをプリセット位置間で順番に移動するように設定します。カメラは手動で無効にされるまでツアーを継続します。
- ⑦ 自動回転：カメラを1方向に 360° 移動するように設定します。カメラは、手動で無効にされるまで自動回転を実行し続けます。
- ⑧ ガードツアー：選択したプリセット間でカメラを設定された順序と間隔で移動するように設定します。カメラは手動で無効にされるまで、ガードツアーを実行し続けます。
 - ◆ 設定：間隔を設定し、プリセット位置を選択します。 [設定] ボタンをクリックしてシーケンスを追加します。シーケンス項目にプリセット数と設定された間隔時間が表示されます。
 - ◆ 削除：シーケンスよりプリセット位置を削除するには、シーケンス項目でプリセットを選択して、 [削除] ボタンをクリックします。
- ⑨ ホーム：カメラが元の位置に移動するように設定します。



PTZ が NVR の背面パネルに直接接続されている場合は、AUX コントロールボタン (AUX) が表示されます。電源、ライト、ワイパー、ポンプなどの追加設定を制御できます。

4.2.4. POS

POS機器は、RS-232ポートまたは、LANを介してNVRに接続できます。



番号

シリアルMUX. のポート番号 ex) N01 = COM1, N04 = COM4.

カメラ

POSデバイスにカメラを割り当てる。

形態

NVRとトランザクション検証デバイス間の接続タイプ。

プロトコル

NVRとトランザクション検証デバイス間の通信プロトコル。

保存

NVRを有効または、無効にして、トランザクションデータを表示します。

表示

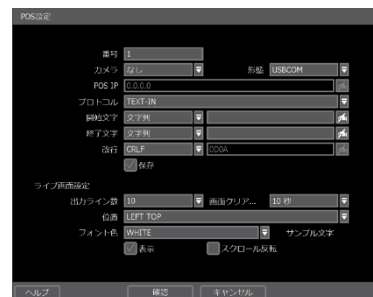
POSデータを表示または、非表示。

設定 (①)

設定画面に移動します。

- POS設定

- 番号 : POSデバイスの ID番号
- カメラ : トランザクション検証デバイスに割り当てるカメラを選択します。
- 形態 : COM(RS-232)または、TCP/IP(LAN)を選択します。
- POS IP : POSデバイスがネットワーク経由で接続されているときにそのデバイスのIPアドレスを入力します。
- プロトコル : NVRとPOSデバイス間の通信プロトコルです。
 - ① TEXT-IN: ASCII文字を受信します。
 - ② SNVR-POS: 製造元独自のプロトコル
 - ❖ 詳細はPOS販売先にお問い合わせください。
- 開始文字 : 割り当てられた文字を入力して、表示と保存を開始します。入力がない場合、システムはすべてのデータを表示し、トランザクションごとに分類せずに保存します。
- 終了文字: 割り当てられた文字を入力して、表示と保存を終了します。正しく動作するには、開始文字が必要です。
- 改行: 改行文字を設定します。(16桁の16進値である必要があります。)
 - ① [CRLF] / [CR] / [LF]: ASCIIタイプの POSで一般的に使用される文字。
 - ② [Custom] : 上記の一般キャラクター以外は使用できます。 使用できるのは数字(0~9)とアルファベット(A~F)のみです。偶数を入力してください。
例) 16進値 : 0x0D 0x0A → 0DOA
- 保存 : POSデータを保存します。



- ライブ画面設定

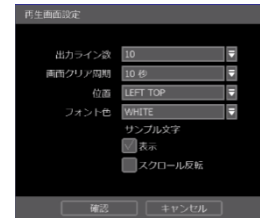
- 出力ライン数 : 画面に表示する行数を設定します。
- 画面クリア時間 : 画面にテキストを表示する期間を設定します。設定した時間後に新しいデータが入力されない場合、データは画面から削除されます。"0"に設定されている場合、データは削除されません。(開始文字が存在し、文字を入力すると、クリア時間設定に関係なく現在のデータは削除されます)
- 位置 : POSデータの表示位置を指定します。
- フォンと色 : 画面に表示されるフォントの色を選択します。"サンプルテキスト"に表示されて

- 表示 : いる色で表示されます。
- 表示 : 選択すると、ライブモードでPOSデータが表示されます。
- スクロール反転 : スクロール方向が変更されます。選択すると、下から上にスクロールでき、一番上に最新のデータが表示されます。

再生画面設定 (2)

再生モードの設定画面を開く

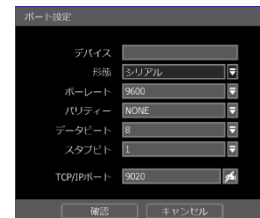
- 出力ライン数 : 画面に表示する行数を設定します。
- 画面クリア周期: 画面にテキストを表示する期間を設定します。設定した時間後に新しいデータが入力されない場合、データは画面から削除されます。"0"に設定されている場合、データは削除されません。(開始文字が存在し、文字を入力すると、クリア時間設定に関係なく現在のデータは削除されます)
- 位置 : POSデータの表示位置を指定します。
- フォント色 : 画面に表示されるフォントの色を選択します。"サンプルテキスト"に表示されている色で表示されます。
- 表示 : 選択すると、再生モードで POSデータが表示されます。
- スクロール反転: スクロール方向が変更されます。選択すると、下から上にスクロールでき、一番上に最新のデータが表示されます。



ポート設定 (3)

通信ポートの設定画面を開く

- 形態 : 通信ポートのタイプを設定します。
 - シリアル : シリアルMux. 接続がないNVRとPOSデバイス間の接続用です。
 - マックス : NVRとPOSデバイス間の 1対Multi接続用です。
- ボーレート : 接続されたPOSデバイスに従ってボーレートを設定します。
- パリティ : POSデバイスに従って、PARITYを設定します。
- データビット : POSデバイスに従って、DATABITを設定します。
- ストップビット : POSデバイスに従って、STOPBITを設定します。
- TCP/IPポート : TCP/IPポート番号を設定します。



4.2.5. キーボード

外付けキーボードを使用する場合は、ドロップダウンオプションからモデルと対応するボーレートを選択します。ボーレートはキーボード自体に設定されているボーレートと一致する必要があります。システム > 情報 設定ページのキーボードIDがキーボードの設定と一致していることを確認します。



4.3 アラーム

4.3.1. センサー

システムに複数のセンサーを設置し、プレー及びポストアラームの録画や集中録画機能も利用できます。

ON/OFF

センサーをオンまたは、オフにします。

カメラ

機能を使用するとするカメラを選択します。

出力

機能を使用するとするアラーム出力を選択します。

注意 リレー接点には最大 24V/1Aに対応できます。 24V/1Aを超える外部回路に接続すると、システムに問題が発生する可能性があります。

プリセット

センサーが動作されたときに PTZカメラをプリセット位置に移動するように設定します。

周期 (Post Alarm)

センサーが有効になるまでの録画期間を設定します。この間選択したカメラは録画設定に従って録画されます。録画が停止し、設定された期間が終了するとアラーム出力がオフになります。

ブリアラーム

センサーが有効になる直前の録画期間を秒単位で設定します。最大5秒を入力します。ブリアラーム録画モードは、[録画]メニューで設定した録画速度で常に“連続”します。

形態

センサータイプを N/O(通常オープン)または N/C(通常クローズ)として選択します。通常、N/Oセンサータイプの回路が開いており、センサーの起動はクローズ時に発生し、N/Cタイプは逆に動作します。

ノート センサータイプ(N/O または N/C)の設定を確認します。[ドライコンタクトタイプ]を使用することをお勧めします。但し、[ウェットコンタクトタイプ]を使用すると、システムが破損することがあります。

通知

センサーが有効になったとき、または、[通知]ボタンを押すことによってモーションが動作されたときに、アラートを受ける方法を選択できます。ブザーを選択したときにブザー音が鳴ったり、カメラのポップアップ画面でブザー音が鳴ったりします。

ノート “カメラポップアップ”を有効にすると、マルチスクリーンモードでアラームが動作されると、システムは自動的にシングルチャンネルモードに切り替わります。

4.3.2. カメラアラーム

モーションが検出されたときに録画を開始するように NVRを設定します。選択したセンサー出力チャンネルを介してアラーム信号を動作することもできます。



出力

リレー出力を選択します。

注意 リレー接点には、最大 24V 1Aの他のデバイスを接続できます。24V 1A以上の電源に接続されている場合、システムに問題がある可能性があります。

周期

センサーの動作時間を 1～15秒に設定します。

プレーアラーム

モーションが検出される直前の録画期間を秒単位で設定します。最大5秒を入力します。プレーアラーム録画モードは、[録画]メニューで設定した録画速度で常に“連続”します。

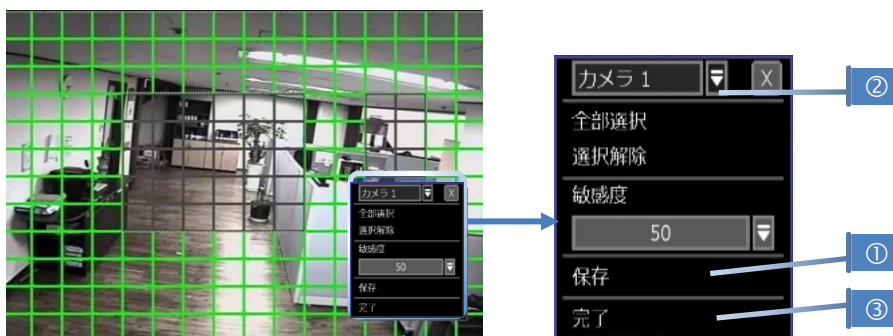
モーション領域

カメラの動作領域と感度を設定します。エリアは、特定のブロックをクリックするか、マウスカーソルを画面上でドラッグして複数のブロックを選択することでできます。モーション検出が有効になっているエリアが、緑の境界線付きで表示されます。選択されていない領域はグレーの枠で表示されます。

[モーションエリア]セクションの [設定]をクリックしてエリアを設定します。

動き検出エリアを選択して、[保存] (①)をクリックし、[完了] (③)をクリックして変更を保存します。

[全部選択] (②)をクリックすると、カメラ全体の FoVの動き検出が有効になります。



ノート カメラを設置する場所の実際の動きを考慮し、モーション検出エリアと感度を適切に設定する必要があります。

通知

カメラのアラームを有効にするか、“通知”ボタンを押すことでモーションが動作されるかを選択できます。ブザーを選択したときにブザー音が鳴ったり、カメラのポップアップ画面でブザー音が鳴ったりします。

設定コピー

NVRに接続されているすべてのカメラに設定を適用するには、[設定コピー]ボタンをクリックします。:

- ① 設定を取得するチャンネルを選択します。
- ② コピーするプロパティを選択します。
- ③ 設定を適用するターゲットチャンネルを選択します。
- ④ 選択した他のすべてのチャンネルに設定を適用するには、[確認]をクリックします。



イベントモニター

モーションの数とセンサーの検出数を確認できます。
また、“設定”ボタンからカメラの設定にアクセスできます。

チャンネル	検出回数	センサー	合計
CH1	0		
CH2	0		
CH3	0		
CH4	0		
CH5	0		
CH6	0		
CH7	0		
CH8	0		
CH9	0		
CH10	0		
CH11	0		
CH12	0		
CH13	0		
CH14	0		
CH15	0		
CH16	0		

4.3.3. その他アラーム

SMART HDDチェック、映像信号損失、ディスクエラー、電源失敗などの追加のNVR異常に対するアラームを設定します。

アラーム	ON/OFF	出力	期間	通知
S.M.A.R.T	ON	0	3 秒	通知
映像信号損失	ON	0	3 秒	通知
ディスクエラー	ON	0	-	通知
電源失敗	OFF			

アラーム	ON/OFF	HDD使用率	OUT	期間	通知
DISK FULL	ON	100%	0	3 SEC	通知

*リレーBOXを使用していない場合には、機器の出力のみを使用することができます。

S. M. A. R. T.

HDDが動作不能になりかけたときにアラーム信号が動作します。HDDのステータスを確認するには、“4. 1. 4 ハードディスク”を参照してください。

映像信号損失

カメラ信号が切断されたときにアラーム信号が動作します。

ディスクエラー

HDDのエラーが原因でシステムが映像を録画しない場合にアラーム信号が動作します。

電源失敗

電源が正常に動作しないときにアラーム信号が動作します。

DISK FULL

HDDの容量の一定割合を占めるときにアラーム信号をトリガーします。HDDがフルになったら録画を停止するように設定し、HDDがここで設定した一定率で占有されると、NVRは録画を停止し、アラームが動作されます。

ノート 追加アラームは、“ON”に設定されている場合にだけイベントログに表示されます。

ノート S. M. A. R. T (Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology) は、HDDメーカーが開発した技術です。場合によっては、S. M. A. R. T が HDD の異常動作を検出できない場合があります。HDD メニューの HDD ヘルスチェックを定期的に行うことをお勧めします。

4.4 録画

4.4.1. カメラ登録/管理

カメラの登録/削除/セットアップは、NVRで自動的にカメラのスキャンと登録を行ったり、手動でカメラを検索して追加したりすることで行うことができます。



ON/OFF

録画をオンまたは、オフします。

プロトコル

プロトコルの種類 (ONVIF、VHT、FOCUS、RTSP、etc.)

IPアドレス

カメラのIPアドレスを表示します。

モデル

カメラのモデル名を表示します。

ブランド

カメラ名 (一部のカメラは修正可能)

設定

カメラの設定をします。 ("3.4 カメラの設定"を参照)

削除

カメラの削除を削除します。 ("3.3 カメラの削除"を参照)

チャンネルグループ (①)

1つの画面に最大 8チャンネルが表示されます。別のチャンネルグループに移動するには、チャンネルグループボタンをクリックします。

現在ページ削除 (②)

現在のページのカメラを削除します。 ("3.3" カメラの削除を参照)

全体削除 (③)

全てのカメラを削除します。 ("3.3" カメラの削除を参照)

カメラ登録 (④, ⑤, ⑥, ⑦)

自動カメラ登録、DRAG & DROP 方式カメラ登録、詳細設定など、さまざまな方法でカメラを登録できます ("3.2 カメラの登録"を参照)。

各カメラの録画日程を設定します。 スケジュールを設定するカメラまたは、全体を選択します。 録画は、すべての曜日について、1日 00 ～ 23の範囲で 1時間ごとに設定できます。休日の場合は、特別な録画モードを設定することもできます。

録画 > 録画日程

IP CAMERA 録画日程 録画設定

☐ 全体
 ☒ 1
 ☐ 2
 ☐ 3
 ☐ 4
 ☐ 5
 ☐ 6
 ☐ 7
 ☐ 8
 ☐ 9
 ☐ 10
 ☐ 11
 ☐ 12
 ☐ 13
 ☐ 14
 ☐ 15
 ☐ 16

録画モード
 ☐ 連続録画
 ☐ モーション録画
 ☐ センサー録画

☐ OFF
☐ 連続+モーション
☐ 連続+センサー
☐ モーション+センサー

全体	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
日																								
月																								
火																								
水																								
木																								
金																								
土																								
休日																								

☐ 連続+録画モードの場合秒当たり1フレームだけ録画
 ☐ 緊急録画時録画時間制限 30 秒

録画しない。"カメラ"の設定メニューでフレーム記録を設定しても、録画日程テーブルに"OFF"を設定しても、何も録画しません。

"カメラ"の設定に従って、常に録画します。

システムは、動きが検出された場合だけ録画します。
 “イベント＞モーションアラーム”が無効の場合、システムは動作を検出したときに録画しますが、動作アラームは有効になりません。

“イベント＞センサー”メニューの設定に従ってセンサーが動作された場合にだけ録画します。
“イベント＞センサー”が無効になっている場合、システムはセンサーが動作されたときに録画されますが、センサーアラームは有効になりません。

“録画 ＞ カメラ”メニューの設定に従って、システムは継続的に録画されます。

“イベント ＞ モーションアラーム”の設定に従ってモーションが検出されると、録画モードからモーション設定に切り替えます。また、ネットワークを介して遠隔ソフトウェアに“モーションイベント”メッセージを通知します。

“イベント ＞ モーションアラーム”メニューで“OFF”を設定し、“スケジュール”でこのモードを設定した場合、連続録画が行われ、動作が検出されても動作アラームは有効になりません。

“録画＞カメラ”メニューの設定に従って、常に“連続”で録画します。
ただし、センサーが動作されると、録画モードが“イベント＞センサー”メニューに従ってセンサー設定に切り替わります。また、ネットワーク経由でリモートソフトウェアに“センサーイベント”メッセージを通知します。
“イベント＞センサー”で“オフ”を設定し、このモードを“スケジュール”に設定すると、センサーが動作されても連続的なセンサーアラームは有効になりません。

モーションが検出され、センサーが同時に動作されたときにだけ録画されます。“イベント”センサーと“イベント”モーションアラームの両方が無効になっている場合、システムはセンサーが動作されて動きが検出されても、センサーも動き検出アラームも有効になりません。

ノート 録画スケジュールが“連続+モーション”または、“モーション+センサー”で設定されている場合には、通常動作時に連続または動き検出モードで録画します。ただし、モーションエリアでモーションが発生したり、アラームが起動したりすると、“イベント”メニューの“モーションアラーム”または“センサー”で設定した録画モードに切り替わります。

ノート ダークブルーカラー

DST(サマータイム)中に録画されたデータは、再生モードのインテリ検索バーでダークブルーカラーで表示されます。

休日設定

特定の日を「休日設定」で「休日」として設定し、その日の特別な録画スケジュールを割り当てます。システムは最大32個の休日をサポートします。
[日付]ボタン(📅)を押して説明を書き込んで、[追加]を押して休日をリストアップします。



ノート 緊急録画

緊急の場合は、メニューバーのパニック録画ボタンを押してインスタント録画を有効にします。録画モードの設定に関係なく、フルフレームレートですべてのチャンネルの最大解像度での録画を瞬時に開始します。**E-REC** はライブモードで表示され、緊急録画で録画した動画の時間検索バーには赤色のバーが表示されます。

‘連続+’録画モードの場合秒当たり1フレームだけ録画

“連続+xx”モードを選択するときに連続録画を1フレームに設定するには、このチェックボックスをチェックします。

緊急録画時録画時間制限

緊急録画モードで録画する時間の制限を設定します。
30秒/60秒/90秒/2分/5分/10分から選択します。



4.4.3. 簡単設定

同じモデルで複数のカメラを同時に設定できます。



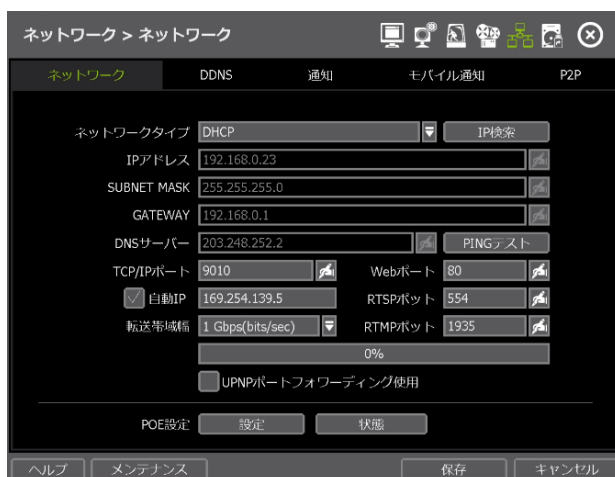
① 設定するモデルを選択します。 同じモデル名を持つすべてのカメラが選択されます。

- ② [ストリーム読み取り]ボタンをクリックして、現在のストリーム情報を取得します。
- ③ [情報取得]ボタンをクリックし、カメラの現在の設定を確認します。
- ④ 設定を変更して [保存]をクリックします。
- ⑤ プロセスが完了すると、“カメラが成功的に適用されました。”とメッセージが表示されます。

4.5 ネットワーク

NVRとルータを適切に設定することで、固定IPまたは動的IPを介してネットワークまたはインターネットに接続できます。

4.5.1. ネットワーク



ネットワークタイプ

ダイナミックIPの場合は、スタティックIPまたは、DHCPを選択します。

DHCPを選択すると、NVRは現在のネットワーク要件に従ってネットワーク設定を自動的に設定します。DHCPが選択されている場合、'IP検索' ボタンをクリックして、すべてのネットワーク設定を自動的に検出します。

[Static IP]を選択した場合は、必要なすべてのネットワーク設定を手動で入力します。正しく設定するには、NVRに DHCPアドレスを割り当て、適切なネットワーク設定をすべて自動検出してから、ネットワークタイプを [Static IP]に変更して、変更を保存することをお勧めします。

IPアドレス

NVRの IPアドレスを表示します。DHCPを選択すると、IPアドレスはネットワークの要件に合わせて自動的に調整されます。必要に応じて手動で IPアドレスを変更することもできます。

SUBNET MASK

サブネットマスクアドレスは、システムが属するサブネットを分類します。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

GATEWAY

ルータまたはゲートウェイサーバの IPアドレスです。別のネットワークからインターネット経由で外部ルータを介して NVRに接続するときに必要です。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

DNSサーバー

ドメインネームサーバの IPアドレスを入力します。DDNS、電子メール通知、および NTPサーバを使用するには、DNSサーバ情報を入力する必要があります。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。正しい情報がわかりにくい場合は、“8.8.8.8”と入力できます。

TCP/IPポート

ローカルまたはリモートで NVRに接続するときに使用するポート番号を入力します。デフォルトは 9010です。

ISPがポート番号9010をブロックしている場合は、別の有効なポート番号(9020など)を入力する必要があります。

WEBポート

ウェブブラウザから接続するときに使用するポート番号を入力します。デフォルトは 80です。ISPがポ

ート番号80をブロックしている場合は、別の有効なWebポート番号(例:8080)を入力する必要があります。

自動IP

自動IPによって割り当てられたシステムIPを自動的に表示します。

転送帯域幅

設定に応じて、システムはネットワーク経由で送信されるデータ量を 25kbps から 1Gbpsまで制御できます。この機能は、特に狭帯域のネットワーク条件下、またはユーザが”映像伝送によって占有されるネットワーク帯域幅”を一定レベルに制限する場合に効果的です。デフォルトは 100Mbpsです。

UPnPポートフォワーディング使用

UPnPは、ユーザがルータでポート転送を設定しない場合でも、”自動ポート転送機能”をサポートします。一部のルータや一部のネットワーク環境ではサポートされない場合があります。

ネットワーク環境に基づいて必要な情報を入力します。

- ネットワークタイプ : スタティック IP を選択します。(固定IPの場合)
- IPアドレス : ローカルIP #をNVRに割り当てます。(例、192.168.0.164)
- SUBNET MASK : LANのサブネットマスクを入力します。(例、255.255.255.0)
- GATEWAY : LANのゲートウェイを入力します。(例、192.168.0.1)
- DNSサーバー : DNSサーバのIP #を入力します。インターネット接続には、このIP番号を入力する必要があります。ISPに連絡して、IP# を入手してください。IP# がわからない場合は、”8.8.8.8”と入力できます。
- TCP/IPポート : デフォルトは、9010です。
ISPがポート番号9010をブロックしている場合は、別の有効なポート番号を入力する必要があります。(例、9020)
- WEBポート : デフォルトは、80です。
ISPがポート番号80をブロックしている場合は、別の有効なウェブポート番号を入力する必要があります。(例、8080)
- 転送帯域幅 : デフォルトは、100Mbpsです。
ネットワークの状態を考慮して設定する帯域幅制限を選択します。

ノート 同時接続の最大数は 16 ユーザです。

POE 設定

① 設定

NVRに直接接続されている PoEカメラ用の IPアドレスとサブネットマスクを手動で設定します。

② 状態

NVRに接続された PoEカメラのステータスを確認し、必要に応じてすべての PoEカメラをリセットします。

③ メンテナンス

各カメラのネットワークステータスと NVRおよびカメラのデータフロー情報を確認します。

MACフィルタリング設定とIPフィルタリング設定を設定します。



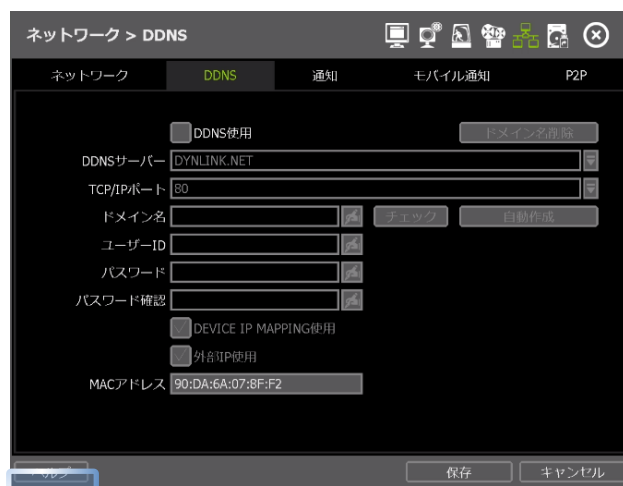
4.5.2. DDNS

公開DDNSサーバまたは、NVRメーカー(dynlink.net)が運営する DDNSサーバを使用して、ダイナミック IP 経由で接続します。

DDNSサーバー

DDNSサービスを無料で信頼性の高い方法でサポートします。これにより、長い複雑な IPアドレスではなく、NVRに URLアドレスを割り当てることができます。

“DDNSを使用する”チェックボックスをクリックします。デフォルトは [DYNLINK.NET]です。ドロップダウンリストより [DYNDNS.COM]も選択できます。“dynlink.net”はNVRメーカーが運営するDDNSサーバの固定ドメイン名で、“dyndns.com”は公開DDNSサーバの1つです。



ノート “ヘルプ”ボタンを使用すると、いくつかの重要な設定を行う方法を理解できます。
たとえば、DDNSの設定方法に関するヘルプが必要な場合は、メニューの右下にある“ヘルプ”ボタンをクリックします。

ネットワーク環境に基づいて必要な情報を入力します。[保存]ボタンをクリックします。

- DDNSボックスの使用を有効にする。
- DDNSサーバー：DYNLINK.NETを選択する。
- TCP/IPポート：デフォルトは、80です。
- ドメイン名：NVR(NVROFFICEなど)にドメイン名を割り当てます。同じドメイン名が割り当てられている場合、[Save]をクリックするとメッセージがポップアップします。

IP MAPPING使用と外部IP使用

IPマッピングとポートフォワーディング(インターネット接続にルータを使用する場合など)を使用している場合は、[デバイスIPマッピングを使用する]と[外部IPを使用する]の両方を有効にして、正しく接続します。

リモートソフトウェアでの設定

[オプション→設定]のメニューでDDNSアドレスとポート番号を入力します。

DDNSサーバのアドレスは“dynlink.net”、ポートは“80”です。

[サイト登録]のメニューで、[追加]ボタンをクリックしてNVRをDDNSドメイン名で登録します。

IPアドレス(またはURL)に“MACアドレス+dynlink.net”または“ドメイン名+dynlink.net”を入れることは非常に重要です。

- 例) 1. Macアドレスが “00:1C:84:01:00:02” の場合 ➔ “001c84010002.dynlink.net” と入力
2. ドメイン名が “NVROFFICE” の場合 ➔ “nvroffice.dynlink.net” と入力

IEでの設定

Mac address + dynlink.netと入力できます。

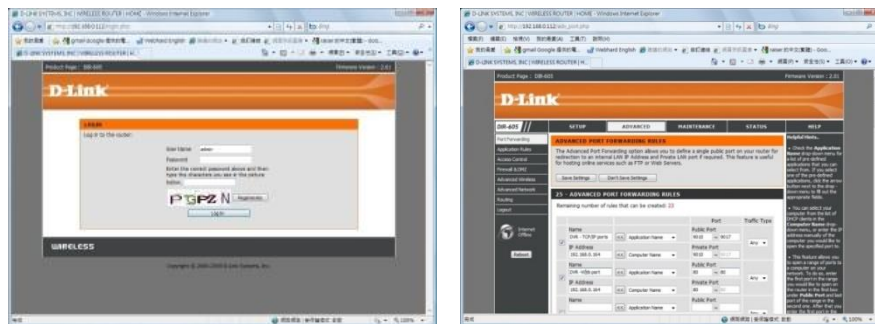
サブドメイン名を使用する場合、ドメイン名 + dynlink.netより入力できます。

- 例) 1. Macアドレスが “00:1C:84:01:00:02” の場合 ➔ “http://001c84010002.dynlink.net” と入力
2. ドメイン名が “DVRROFFICE” の場合 ➔ “http://DVRROFFICE.dynlink.net” と入力

ルータ設定 (ポートフォワーディング)

ネットワーク接続にルータを使用する場合は、ルータでポートフォワーディングを実行する必要があります。(スタティックIPとダイナミックIPの両方) 次に説明する手順は参考例の一つに過ぎず、ルータのモデルによってキャプチャした数値が異なる場合があります。詳細については、ルータのマニュアルを参照してください。

- 1) ブラウザを使用してルータにログインします。
- 2) [詳細 > ポートフォワーディング]メニューに移動します。



3) 必要なポート転送を以下のように実行します。(TCPポートおよびWebポート)

■ NVRの TCP/IPポートの場合

TCP/IPポートに 9010を使用する場合、ポート番号 9010を NVRローカルLAN IPに転送する必要があります。

☒	Name DVR - data port	<< Application Name	Public Port 9010 ~ 9010	Any
	IP Address 192.168.0.164	<< Computer Name	Private Port 9010 ~ 9010	

❖ NVR TCP/IPポートを9020に変更する場合は、9020に対してポート転送を開いて実行する必要があります。

■ NVR用のモバイルポート

ウェブポートに9011を使用する場合、ポート#9011をNVRローカルLANIPに転送する必要があります。

☒	Name DVR - mobile port	<< Application Name	Public Port 9011 ~ 9011	Any
	IP Address 192.168.0.164	<< Computer Name	Private Port 9011 ~ 9011	

❖ TCP/IP ポートを 9021に変更する場合は、9021に対してポート転送を開いて実行する必要があります。

■ NVR用ウェブポート

ウェブポート 80を使用する場合、ポート#80を NVR ローカル LAN IPに転送する必要があります。

❖ TCP/IPポートを8080に変更する場合は、8080に対してポート転送を開いて実行する必要があります。

☒	Name DVR - web port	<< Application Name	Public Port 80 ~ 80	Any
	IP Address 192.168.0.164	<< Computer Name	Private Port 80 ~ 80	

NVRは、リモートでの映像送信、設定、時刻同期などのために、いくつかのポートを開く必要があります。次のポートリストを参照して、これらのポートがファイアウォールまたは、その他のネットワーク設定によってブロックされていないことを確認してください。

プロトコル	ポート	使用	備考	編集可能	位置
TCP	9010	NVRデータポート (遠隔ソフトウェア用)	TCP Port	0	Network > Network
TCP	8002	NVR Time Sync Service	遠隔PCネットワークでポート転送が必要	0	System Info > Date/Time Setting
TCP	8003	Event Notify Socket	遠隔PCネットワークでポート転送が必要	0	Network > Notification
TCP	80	Web Service		0	Network > Network
TCP	80	DDNS Server		選択	Network > DDNS
TCP	123	NTP Server		固定	Network > Network

4.5.3. 通知

ネットワーク > 通知

ネットワーク DDNS 通知 モバイル通知 P2P

☐ 遠隔通知 ☐ E-MAIL通知

番号	アドレス

番号	E-MAIL

追加 変更 削除 追加 変更 削除

送信メールSMTPサーバー smtp.mailserver.com ポート 25
メールアカウントのユーザー名 パスワード
メールアドレス user@mailserver.com 暗号 なし
☐ SSL認証使用 E-MAILテスト

ヘルプ 保存 キャンセル

遠隔通知

遠隔ソフトウェアPCの IPアドレスにアラームメッセージを送信できます。
この機能を使用し、IPアドレスおよびイベントを設定するには、[遠隔通知]を選択します。

追加 / 変更 / 削除



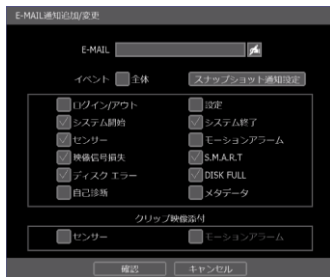
- IPアドレス： イベント通知を受信する遠隔ソフトウェアPCのIPアドレスを入力します。
- ポート： 遠隔ソフトウェアPCで設定されるポート番号を入力します。 デフォルトは 8003です。
- イベント： 通知するイベントを選択します。“ALL”を選択すると、すべてのイベントが通知されます。

ノート アラーム動作時に遠隔ソフトウェアに遠隔ポップアップを設定します。
遠隔ソフトウェアユーザーがネットワーク経由で瞬時にポップアップ映像を受信するには、上記のメニューで“センサー”または、“モーションアラーム”をオンにする必要があります。“センサー”は物理アラームによって動作されるアラームを意味し、“モーションアラーム”は動き検出によって動作されるアラームを意味しています。

E-MAIL通知

メールアドレスに通知を送信できます。この機能を使用して電子メールアドレスおよびイベントを設定するには、[E-MAIL通知] を選択します。

追加 / 変更 / 削除



- E-MAIL : イベント通知を受信するメールアドレスを入力します。
- イベント : 通知するイベントを選択します。“ALL”を選択すると、すべてのイベントが通知されます。
- クリップ映像添付
: 添付するファイルのタイプを選択します。

SMTP設定

電子メール通知を送信するように送信者を設定する必要があります。

- 送信メールSMTPサーバー : SMTPサーバアドレスを入力します。
- ポート : 送信に使用するポート番号を入力します。
- メールアカウントのユーザー名 : 送信側アカウントのユーザを入力します。
- パスワード : 送信側アカウントのパスワードを入力します。
- メールアドレス : 送信者のメールアドレスを入力します。
- E-MAILテスト : 設定が正しく入力されているかどうかを確認します。 NVRがメールを送信し、その結果をお知らせします。
 - 1) SMTPサーバの応答時間によっては、時間がかかる場合があります。
 - 2) 電子メールを受信してもSMTPサーバがメールを送信しない場合もあります。
- SSL認証使用 : SMTPサーバでSSL認証(Gmail、Yahooメールなど)が必要な場合は、このオプションを選択します。

ノート 設定の最優先事項は、常に”録画 > スケジュール”メニューにあります。
従って、上記のイベント選択のチェックボックスがオンになっている場合でも、システムはモーションアラームまたは、センサーにアラームメッセージをメールで送信しません。 動作およびセンサーのメール通知を受信するには、“スケジュール > 録画”、“イベント > モーションアラーム”、“イベント > センサー”を適宜設定します。
例えば、“録画 > スケジュール”だけで“連続”を設定し、“遠隔通知”の“全部”チェックボックスを選択した場合、システムはメール通知を行いません。 この場合、スケジュールで“連続 + モーション”、“モーション”、“センサー”、“連続 + センサー”を設定し、“モーション”/“センサー”によるメール通知を正しく有効にします。

4.5.4. モバイル通知

NVRに登録されているモバイルデバイスにイベント通知を送信できます。

モバイルアプリケーション“MV3000”は、登録前にスマートフォンデバイスにインストールする必要があります。この機能を使用するには [モバイル通知使用] を選択し、通知するにはイベントを選択します。

モバイルアプリでは、アプリの右上にある+記号をクリックして、IPアドレスまたはDDNSを使用してNVRを追加します。

サイトがアプリのデバイスリストに追加されたら、リスト内のNVRをハイライトしてアプリの右下にあるSe

tupボタンを押します。[プッシュチェックを使用する]が有効になっていることを確認します。

モバイルデバイスの IDは、NVRのモバイル通知テーブルに表示されます。



- ノート**
1. iPhone、iPad、Android端末でモバイルプッシュ通知機能が利用可能です。
 2. モバイルプッシュ通知の登録は、モバイルに設定されている場合に使用できます。
 3. メニューの [削除] ボタンをクリックするか、モバイルデバイスで [プッシュ通知の無効] を選択すると、リストを削除できます。
 4. モバイルデバイスの最大数は 50 です。

削除

モバイルデバイスが NVR に正しく登録されると、リストに表示されます。

デバイス ID は、モバイルデバイスの一意の ID です。

削除する場合は、デバイスを選択して [削除] ボタンをクリックします。次に、モバイルデバイスでのプッシュ通知の設定が無効になります。

- ノート**
1. プッシュ通知機能は、NVR およびモバイルデバイスがインターネットに接続されている場合のみ動作します。
 2. 詳しくは MV3000 のマニュアルをご覧ください。

4.5.5. P2P

QRコードの読み取りとezP2Pクラウドサーバをサポートします。

QRコードによるP2P設定

[PoP使用]を選択すると、P2Pサービスが使用されます。

ネットワーク > P2P

ネットワーク DDNS 通知 モバイル通知 **P2P**

☒ P2P使用 (MACアドレス: 90DA6A078FF2)

P2P接続ID ID読み取り

どこからでも'http://www.ezP2P.com/p2p/'に接続してください。

☐ EZP2P.COM登録

使用前にEZP2Pクラウドサーバーに登録してください。(WWW.EZP2P.COM)

E-MAIL

パスワード

進行状況 0%

状態: **P2Pサービスが中止されました。**

ヘルプ 保存 キャンセル

QRコードメニュー (P2Pサービスが中止されました。)

ネットワーク > P2P

ネットワーク DDNS 通知 モバイル通知 **P2P**

☒ P2P使用 (MACアドレス: 90DA6A078FF2)

P2P接続ID ID読み取り

どこからでも'http://www.ezP2P.com/p2p/'に接続してください。

☐ EZP2P.COM登録

使用前にEZP2Pクラウドサーバーに登録してください。(WWW.EZP2P.COM)

E-MAIL

パスワード

進行状況 100%

状態: **P2Pサービスが始まりました。**

ヘルプ 保存 キャンセル

モバイル用QRコード

QRコードメニュー (P2Pサービスが始まりました。)

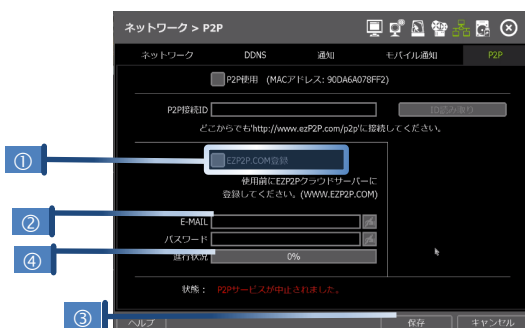
モバイルアプリケーションであるMV3000でQRコードをスキャンすると、簡単にシステムを登録して監視できます。

ノート ezP2Pクラウドサービスについて...
ezP2Pクラウドサービスは、複雑なネットワーク設定のないクラウドベースの映像管理システムです。ezP2P Cloud Server(www.ezp2p.com)に自分のアカウントでログインするだけで、サムネールプレビューやインスタントライブ監視を楽しめます。

この機能を使用するには、ezP2P™クラウドサービスサイトで、ユーザーIDとパスワードを登録します。
(www.ezp2p.com)



- ① [EZP2P.COM登録]を選択します。
- ② ezP2Pクラウドサーバサイトに登録されていたE-MAIL & PASSWORDを入力します。



- ③ [保存]をクリックして、ezP2Pクラウドサーバとの通信を開始します。
- ④ プロセスは上記の画像内の④で示されています。

ezP2P™クラウドサービスサイト(www.ezp2p.com)にアクセスし、ログインします。
スナップショットイメージと詳細情報を含む登録サイトリストが表示されます。



- 注意** 次の場合、P2Pクラウド機能は利用できない場合があります。
- 1) ルータが UPnP機能をサポートしていないか、UPnP機能がオフ。
 - 2) ファイアウォールがネットワークに設定されている。
(オープンするにはポート番号50,000 またはその以上である必要があります。)
 - 3) 他の問題により、ネットワークの状態はサポートしていません。
- ネットワーク管理者またはインターネット サービス プロバイダーに問い合わせてください。

ノート ezLink™は、保存ネットワークのウェブブラウザからNVRのMACアドレスのみを使用して簡単にNVRに接続できる機能です。
この機能を使用するには、ウェブブラウザの検索バーに次のように NVRの MACアドレスを入力します。 [http://\[Mac Address\].ezp2p.net](http://[Mac Address].ezp2p.net)
たとえば、Mac アドレスが"00:1C:84:01:00:02"の場合、ユーザはアドレスを"001c84010002.ezp2p.net"として入力できます。

4.6 バックアップ

4.6.1. 手動バックアップ

映像の再生を見ながら簡単に映像を保管することができます。

1. ライブモードでは、メニューバーの[バックアップ]アイコンをクリックしてバックアップメニューを開きます。
2. 再生モードで、メニューバーの[簡単バックアップ] 1回押すと、バックアップファイルの開始時刻が表示されます。バックアップクリップの終了時刻を示すアイコンを再度クリックします。バックアップメニュー画面が表示されます。



3. 適切なUSBメモリを接続し、[スキャン]を押して認識してから、バックアッププロセスを開始します。
4. 必要に応じて次のオプションを調整します。:
 - a. バックアップファイルに含めるチャンネルを選択します。
 - b. バックアップファイルの開始時刻と終了時刻を調整します。
 - c. 選択すると、保存されたファイルに「バックアップビューアー」が含まれます。
 - d. バックアップファイルのサイズを確認するには、[計算]ボタンを押します。
 - e. [ビューアー追加]の横にあるチェックボックスをオンにして、バックアップファイルにバックアッププレーヤーを追加します。バックアッププレイヤーは、プログラムをインストールしなくてもビデオクリップを再生できます。

- f. 必要に応じてファイル名を編集し、保護パスワードを追加します。
- g. バックアッププロセスを開始するには、[開始]を押します。画面にプログレスバーが表示されます。

ノート 適切なバックアップを行うには、内蔵CD/DVD Writer、または、FAT32でフォーマットされたUSBドライブの大手ブランドを使用することをお勧めします。

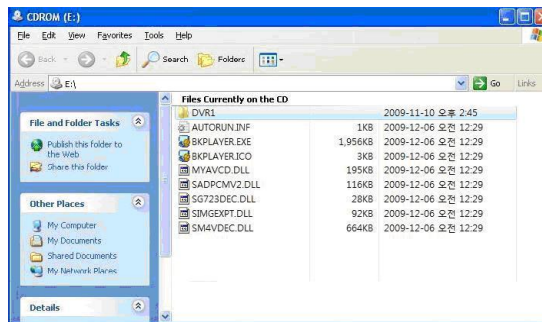
- 1) フォーマットタイプが異なるため、外付けHDDが認識されません。
- 2) パーティション化された USBメモリやパスワードでエンコードされた USBメモリの使用はできません。

ノート “ヘルプ”ボタンを使用すると、いくつかの重要な設定を行う方法を理解できます。例えば、バックアップの設定方法に関するヘルプが必要な場合は、メニューの右下にある“ヘルプ”ボタンをクリックします。

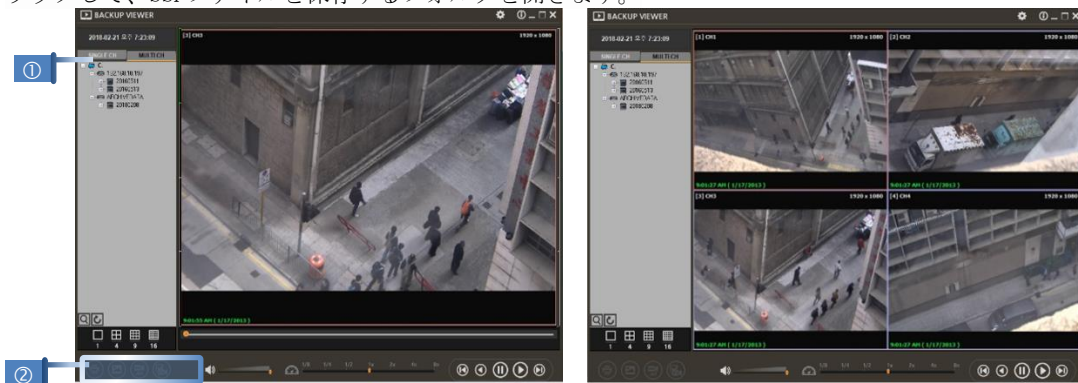
4.6.2. バックアップ映像の取得

[ビューアー追加]を選択すると、追加インストールの必要のない PCでバックアップイメージを確認できます。バックアップデバイス(USB、CD/DVD)をPCに接続すると、ファイルはUSBのフォルダに表示されます。

記録されたデータを再生するには、[MultiBackupPlayer.exe]ファイルをダブルクリックします。バックアッププレーヤーで、再生する映像データファイル(SSF形式)を日付フォルダで開きます。



シングルチャンネルを再生するには、[SINGLE CH] タブ(①)をクリックし、再生するSSFファイルを選択して表示領域にドラッグします。複数のチャンネルを再生するには、[MULTI CH] タブ(②)と [Search] をクリックして、SSFファイルを保存するフォルダを開きます。



プレーヤーウィンドウの左下にあるアイコン(②)を使用すると、画像を印刷、エクスポート、およびズームできます。

Option MENU

バックアッププレイヤソフトウェアの [OPTION] ウィンドウには、さまざまな設定があります。

■ Use DirectDraw

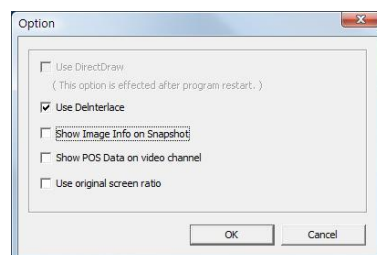
“Direct Draw”をサポートしていないPCもあります。 この場合、[オプション]メニューの [DirectDraw]チェックボックスをオフにできます。

■ Show Image Info on Snapshot

画像情報は、画像をエクスポートするときにテキストオーバーレイとして追加されます。

■ Show POS Data on video channel

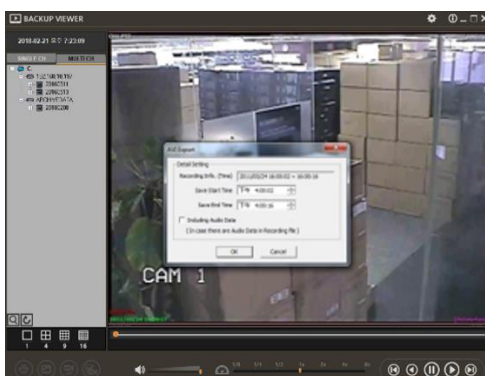
バックアップされたPOSデータは、再生中に表示できます。



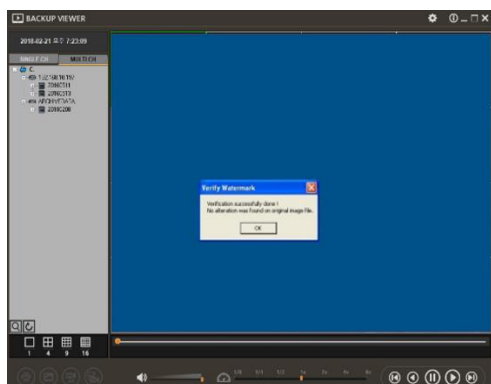
WATERMARK Verification on AVI File

通常のメディアプレーヤーでファイルを再生するには、バックアップファイルをAVIファイルに変換します。

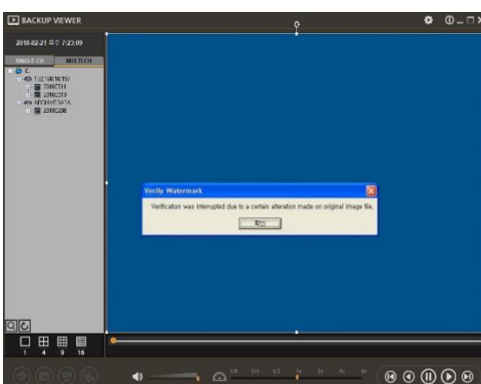
- 1) SSFファイルをシングル CHモードで再生し、[一時停止]をクリックします。 .
- 2) [AVI 変換]をクリックします。
- 3) 開始時刻と終了時刻を設定します。



AVIファイルがバックアッププレーヤーで再生されたら、[Watermark]ボタン(🔍)を押して、ファイルが変更されたかどうかを確認します。ファイルが変更されると、ポップアップメッセージが表示されます。



変更が見つかりませんでした。



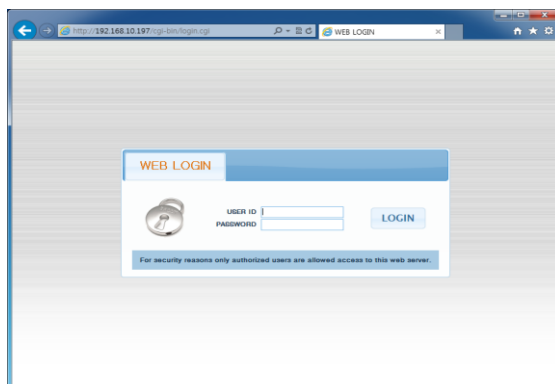
AVIビデオクリップが変更されました。

5. IEを介したウェブ監視

ウェブサーバーが内蔵されています。これにより、通常のウェブブラウザからネットワーク経由でシステムにアクセスし、追加のソフトウェアをインストールせずにライブモニタリング、再生、またはリモート設定を行うことができます。

5.1 ウェブログイン

Internet Explorerのページで、アドレスバーにNVRのIPアドレスまたはDDNSアドレスを入力します。ログインページが表示されたら、ユーザIDとパスワードを入力します。デフォルトのユーザIDとパスワードは"admin"および"1234"です。NVRに接続すると、ActiveXファイルのダウンロードとインストールを求められます。



ActiveX Installation

1. PCにActiveXがインストールされていない場合は、インストールガイドメッセージが自動的に表示されます。
2. [install]をクリックし、インストールウィザードに従って ActiveXのインストールを完了します。



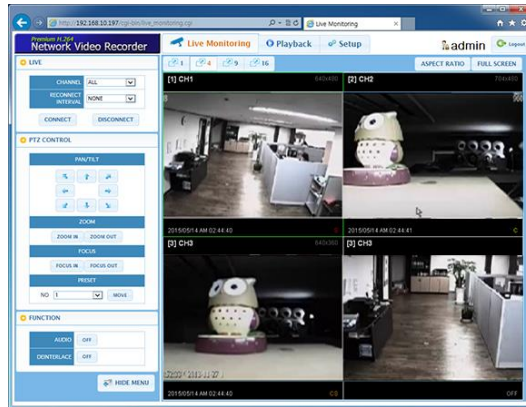
3. ActiveXファイルのダウンロード制限を回避するには、ウェブブラウザのセキュリティ設定でActiveXコントロールが有効になっていることを確認します。"ツール > インターネットオプション > セキュリティ > インターネット > カスタムレベル"に移動し、すべてのActive-Xコントロールとプラグインを有効にします。



4. ActiveXファイルを正しくインストールしないと、NVRから映像が表示されないことがあります。

5.2 ウェブモニタリング

ActiveXファイルが正しくインストールされると、NVRからのライブビューが自動的にウェブページに表示されます。再生やセットアップ、ログアウトなどの他のメニューを選択できます。



LIVE

ライブモードで表示するチャンネルを選択し、接続が切断された場合に再接続間隔を設定し、すべてのチャンネルを接続または切断できます。

PTZ CONTROL

NVRに接続されたPTZカメラを制御するために、パン/チルト、ズームイン/アウト、フォーカスイン/アウト、およびプリセットボタンを制御できます。

FUNCTION

カメラからの音声入力を有効または無効にします。
インターレース機能を有効または無効にして、画質を向上します。

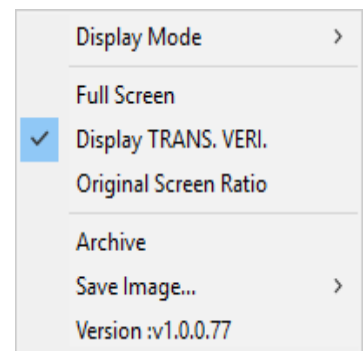
HIDE MENU/SHOW MENU

メニューバーを非表示にするには、[HIDE MENU]ボタンを押します。メニューバーを再度表示するには、[SHOW MENU]ボタンを押します。

POP-UP MENU

右クリックして追加オプションを開きます。:

- Display Mode: 現在のスプリットビューオプションを 1x、4x、9x、または 16x オプションに変更します。
- Full Screen: 現在の分割画面を全画面表示で表示します。画面上の任意の場所を右クリックして全画面表示を終了します。
- Display POS: POSテキストを表示します。
- Original Screen Ratio: カメラの元のアスペクト比を確認します。
- Archive: クリップを PC にバックアップします。画面を1回クリックしてバックアップを開始します。ファイルを保存するディレクトリを選択します。バックアッププロセスを終了するには、[Archive]オプションを再度クリックします。ポップアップ画面が表示され、アーカイブを保存するかどうかを尋ねられます。
- Save Image: 保存する画像のタイプを選択します。(JPG or BMP)



ASPECT RATIO

画像のサイズ比を元の比率またはモニタ比率のいずれかに手動で選択します。

FULL SCREEN

表示を全画面に変更できます。画面を右クリックし、全画面モードを終了します。

5.3 ウェブ再生

NVRから遠隔で映像を再生するには、ウィンドウ上部の [PLAY] をクリックします。

PLAYBACK TIME

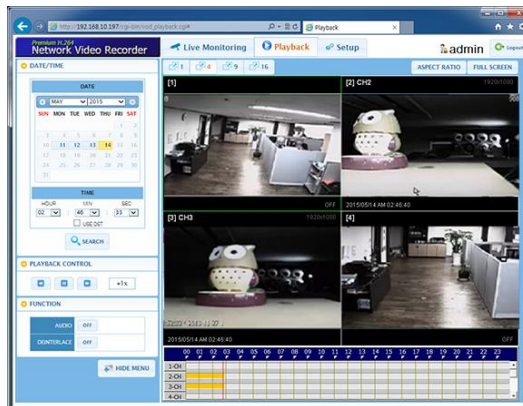
日付と時刻を選択し、[GO] をクリックして選択した時刻からの映像を表示します。

PLAYBACK ICON

再生映像を制御するには、[早送り]、[巻き戻し]、[再生/一時停止]ボタンを使用します。

PLAY DST

このボックスをオンにすると、DST(夏時間)中に重複したイメージが再生されます。詳細については、“3.7 DSTの設定とイメージの再生”メニューを参照してください。



INTELLI-SEARCH BAR

赤色の縦線を検索する時刻に移動します。タイムバーの色は、さまざまな録画モードを示します。詳細については、“4.3.2”を参照してください。

5.4 設定

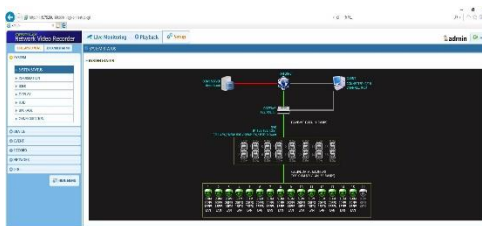
【設定メニュー】

メイン項目	サブ項目
SYSTEM	INFORMATION
	USER
	DISPLAY
	HDD
	UPGRADE
	CONFIGURATION
DEVICE	CAMERA
	AUDIO
	KEYBOARD
EVENT	SENSOR
	CAMERA ALARM

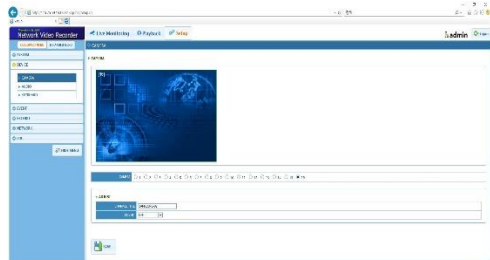
RECORD	EXTRA ALARM
	CAMERA MANAGEMENT
	REGISTRATION
	SCHEDULE
NETWORK	NETWORK
	DDNS
	NOTIFICATION
LOG	SYSTEM LOG
	EVENT LOG
	ELEVATOR LOG

正しいIDとパスワードでログインすると、以下のようにウェブセットアップウィンドウでさまざまな設定を行うことができます。このウェブセットアップは、“admin”アカウントでのみ使用できます。

【System】



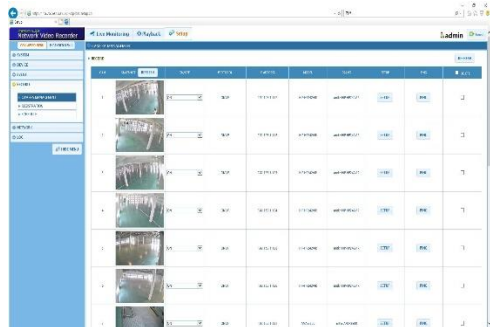
【Device】



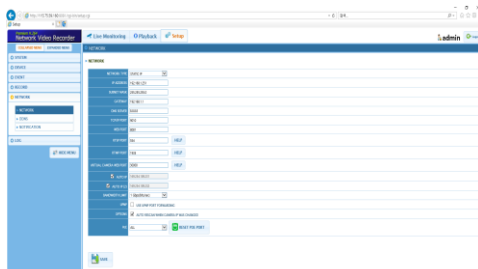
【Event】



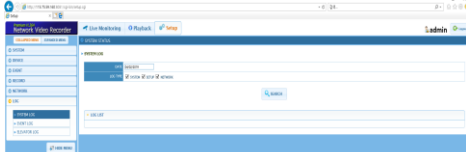
【Record】



【Network】



【Log】



ノート このNVRシステムには独自のウェブサーバが組み込まれています。したがって、ウェブCGI画面は、インターネット接続に関係なく、NVRの組み込みウェブサーバから直接サポートされます。

ノート 〈システム再起動〉 セットアップを変更せずにシステムを再起動できます。この機能を使用すると、システムの動作異常によりネットワークが切断され、再接続を試みることができます。DHCP モードの場合は、システムに割り当てられた IP 番号を変更できます。
